

土地分類基本調査簿（国土調査）第66号

土 じ ょ う 各 論

米 子

5 万 分 の 1

国 土 調 査

経 済 企 画 庁

1 9 6 7

目 次

I 土 壤 細 説	1
I. 1 山地・火山性台地地域の土壌	1
I. 1. 1 褐色森林土	1
I. 1. 2 黒色土壌	13
I. 1. 3 赤色土および赤黄色土	15
I. 2 低地地域の土壌	18
I. 2. 1 黒色土壌	18
I. 2. 2 赤色土壌	33
I. 2. 3 黄褐色土壌	34
I. 2. 4 灰褐色土壌	34
I. 2. 5 灰色土壌	40
I. 2. 6 グライ土壌	47
I. 2. 7 強グライ土壌	51
I. 2. 8 黒泥土壌	57
I. 2. 9 泥炭土壌	59
II 土 壤 分 類 と 土 地 利 用	60
II. 1 山地・火山性台地地域の土地利用	60
II. 2 低地地域の土地利用	62
III 資 料	64
Summary	65

1 : 50,000

土じょう各論

米 子

農林省林業試験場	農林技官	黒 鳥	忠
〃	〃	河 田	弘
〃	〃	吉 岡	二 郎
〃	〃	丸 山	明 雄
農林省農業技術研究所	〃	山 田	裕
〃	〃	三 土	正 則
〃	〃	田 村	英 二

I. 土 壤 細 説

I. 1 山地・火山性台地地域の土壌

I. 1. 1 褐色森林土

褐色森林土は、分布範囲がもっとも広く、図幅内全域にわたり分布するが、花崗岩類、凝灰岩類、安山岩類、流紋岩類および火山放出物（主として火山灰）などの各種母材に由来するものがみられ、それぞれ特徴をもつた土壌を形成している。

花崗岩を母材とする土壌は、図幅の西端および中央南端部に分布する。安来市周辺の山地では、受食土が多く、一般に土層は浅く（会見1統のb）、頂部には露岩地（会見1統のa）がある。また、しばしば花崗岩の風化層（マサ土）が露呈していることもある。沢筋や凹型斜面には、やや未熟ではあるが土層の深い適潤性の匍行～崩積土（会見2統）がある。

安山岩を母材とする土壌の分布は、比較的せまく、標高約170m以上の場所にみられることが多い。尾根から斜面上部にかけて乾性で微砂質の土壌(清水1統)があり、沢筋や斜面下部には、比較的腐植に富み角礫をふくんだ崩積土(清水2統)がある。

流紋岩を母材とする土壌は、米子市南西部と図幅の西端、母里附近の比較的標高の低い山地にごくせまく出現する。未熟な形態をもつ乾性土壌(母里1統)が頂部や尾根に部分的に、埴質で比較的腐植の多い崩積土(母里2統)が沢筋や斜面下部に分布する。

凝灰岩を母材とする土壌は、法勝寺川をはさんで南北にわかれ山地の東端を占めて分布している。尾根筋から斜面上部にかけて土層の浅い角礫をふくむ砂質の乾性土壌(法勝寺1統)があり、斜面下部や凹型斜面には腐植と中小角礫に富んだ砂質の崩積土(法勝寺2統)がある。他の母材の土壌にくらべ2統の土壌の分布面積が広く、スギの造林地がみられ生育がよい。

火山地域には、火山ガラスを多量にふくみ、微砂～壤質の土壌が出現する。斜面下部などに崩落堆積したものは石礫をふくみ(壺瓶山2統)、定積型のもの(壺瓶山1統)は礫をふくまない。

(1) 会見土壌

会見1統 (Aim 1)

この土壌は、花崗岩を母材とした残積型の乾性褐色森林土(BA, BB)である。図幅西端部と中央地区の南部に分布するが、西端部地区は横山土壌の分布が広いので、この土壌の分布面積は少なく、山頂部にみられるだけである。一般に、強い浸食を受けA層は浅い。全体に砂質で粒状構造が発達している。A, B層の界はあまり明瞭でない。アカマツ天然林が多いが、生育は悪く、せき悪林となっているところがみかけられる。

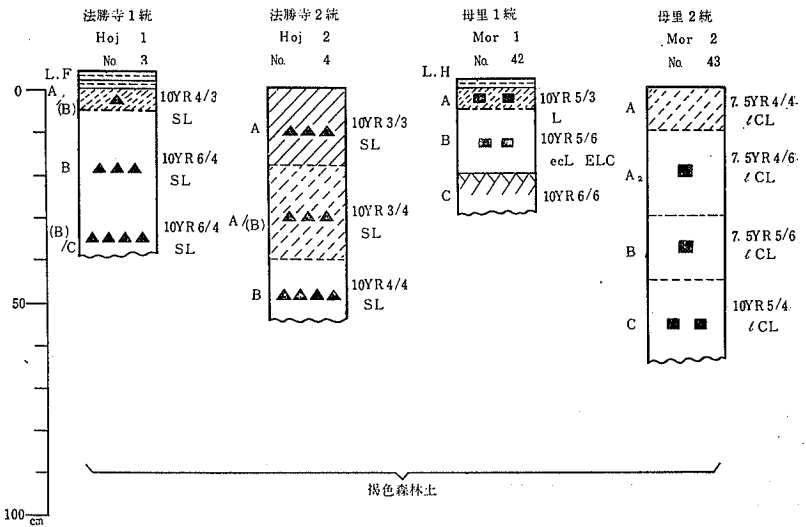
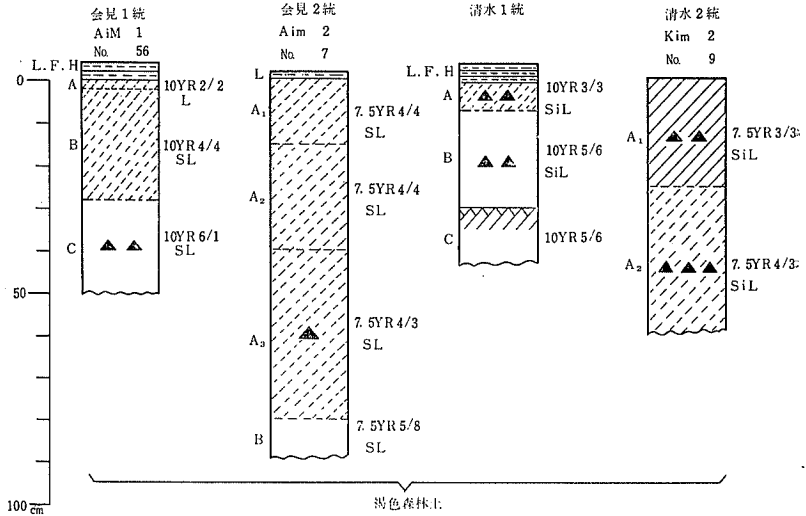
なお、この土壌のうちで浸食が極端にすすみ基岩が露出したものを1統のaとし、土壌が浅くても残っているものを1統のbとして区分した。

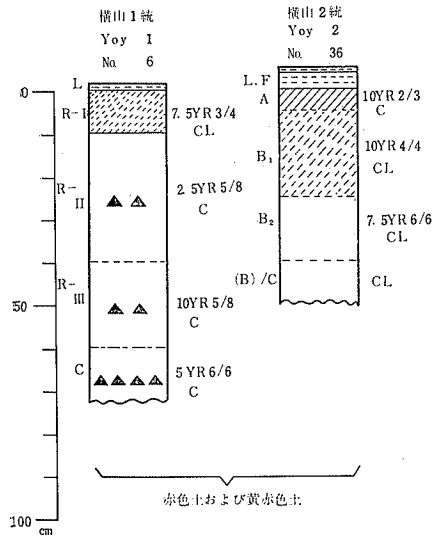
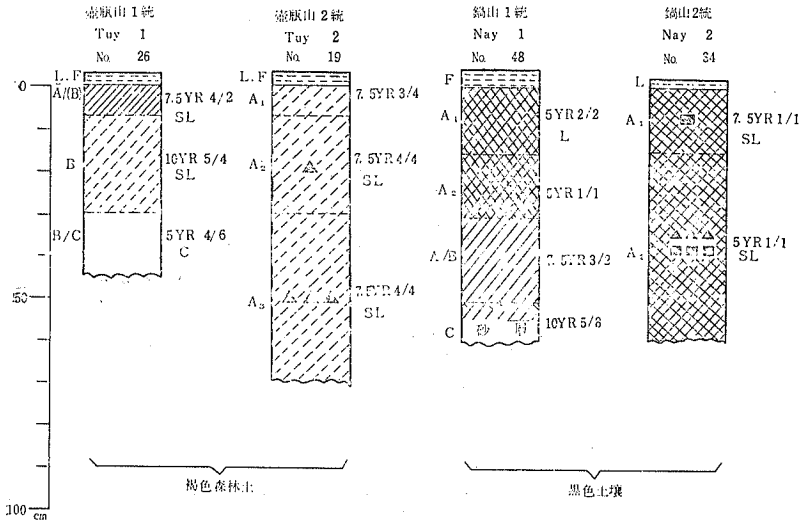
この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面(試坑番号 56)

位 置 西伯郡会見町朝金
海 抜 高 150m

山地火山性台地地域の土壤断面図





断面図凡例

- | | |
|--------|------------|
| 腐植 | 石礫形状 |
| すこぶる富む | 角礫 |
| 富む | 半角礫 |
| 含む | 円礫 |
| なし | |
| 石礫含量 | 層界 |
| すこぶる富む | — 明瞭 |
| 富む | - - - 判然 |
| 含む | - · - · 漸変 |
| あり | |

地 形 山頂緩斜面
 傾斜(方位) 3° (N)
 母 材 花崗岩 残積
 土地 利用 アカマツ天然生林 (せき悪林)
 断面 形態

- A₀ L-F : 1cm, H : 2cm, アカマツ, ネザサ落葉枝。
 A 0~2cm 黒褐色 (10Y R 2/2), 礫なく腐植に富む壤土, 粒状構造発達, 小孔隙頗る富む, 粗密度粗, 粘り零~弱, 乾, 小根頗る富む, B層に漸変。
 B 2~28cm 褐色 (10Y R 4/4), 礫なく腐植を含む砂壤土, カベ状で細小孔隙あり, 粗密度中, 粘り中, 乾, 小中根含む, 層位界判然。
 C 28~50cm+ 黄褐灰色 (10Y R 6/1), 細角礫含む砂壤土, 腐植なし, 孔隙なし, カベ状で頗る密, 粘り弱, 半乾, 根なし。

会見 2 統 (Aim 2)

この土壌は, 会見 1 統と同一地区の沢ぞい, 凹型斜面, 山麓斜面に崩落あるいは匍行堆積した適潤性褐色森林土 (BD) である。やや未熟の傾向をもつものがあり, 砂質で土層は深い。表層上部には軟粒状構造がみられ, それ以下の土層は, 単粒状を呈し, 緻密に堆積することはすくない。各層位界は漸変である。

アカマツの生育は良好で, 近年, 植栽されたものは天然生のものとともに成績がよい。アカマツの造林地として活用すべき余地が小面積ずつではあるが多い。

この土壌の代表断面形態は, 次のとおりである。

代表断面 (試坑番号 7)

位 置 能義部伯太町長田
 海 抜 高 30m
 地 形 丘麓凹型斜面
 傾斜(方向) 26° (S 80° E)
 母 材 花崗岩 残積
 土地 利用 アカマツ天然生林
 断面 形態

- A₀ L: 0.5~1cm, アカマツ, メダケ, ネザサ落葉が主。
- A₁ 0~15cm 褐色 (7.5YR 4/4), 礫なく腐植を含む砂壤土, 軟粒状構造発達, 細小孔隙富む, 粗密度中, 粘り中, 湿, 小根含む, A₂ 層に漸変。
- A₂ 15~40cm 褐色 (7.5YR 4/4), 礫なく腐植を含む砂壤土, 単粒状, 細孔隙あり, 粗密度中, 粘り中, 湿, 中根含む, A₃層に漸変。
- A₃ 40~80cm 褐色 (7.5YR 4/3), 風化中角礫あり, 腐植を含む砂壤土, 単粒状, 細孔隙あり, B層に漸変。
- B 80~90cm+ 明褐色 (7.5YR 5/8), 礫なし, 腐植なし, 構造なし, 単粒状で砂壤土, 細孔隙あり, 粗密度中, 粘り弱~中, 湿, 根なし。

(2) 清水土壌

清水1統 (Kim 1)

この土壌は、安山岩を母材とする残積型の乾性褐色森林土 (BA~BC) である。図幅南西部の一部に分布する。この附近の山地はほとんど横山土壌でおおわれ、清水1統は丘陵性山地の頂部に出現する。A層は浅く粒状・堅果状構造が発達し、腐植は割合に多い。微砂質で腐朽角礫をふくむ場合が多く、堆積はあまり密でない。

シイ、カシ類をまじえたアカマツ天然生林になっているところが多いが、アカマツの成長はさほど悪くない。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面 (試坑番号 10)

位置	安来市清水峠
海拔高	170m
地形	凸型斜面上部 (尾根筋)
傾斜(方位)	15° (S 20°W)
母材	安山岩 残積
土地利用	天然生針広混交林 (アカマツ, シイ, クロバイが主)
断面形態	

- A₀ L-F, H 4cm, アカマツ, シイの落葉が主。
- A 0~7cm 暗褐色 (10YR 3/3), 腐朽小角礫を含み腐植に富む, 壤土, 粒

状・堅果状構造発達，細小孔隙に富む，粗密度粗，粘り弱，半乾，小根含む，層位界判然。

B 7~30cm 黄褐色 (10YR 5/6)，腐植なし，腐朽小角礫あり，堅果状構造やや発達，壤土，細小孔隙含む，粗密度中，半乾，小根富む，中根含む，層位界明瞭。

C 30cm以下 黄褐色 (10YR 5/6)，安山岩風化礫が主。

清水2統 (Kim 2)

この土壌は、清水1統と同一地区の凹型斜面、山麓斜面下部に崩落あるいは匍行堆積した適潤性褐色森林土(BD~BE)である。微砂質で土層は深い。A層は腐植に富み、軟粒状や塊状構造が発達している。全層に小中角礫をふくみ透水、通気ともによい。

広葉樹林として放置されているところが多いが、スギ、ヒノキの造林地もあり成長はよい。ただし、スギの適地はごくかぎられた部分であり、ヒノキが有利とかんがえられる。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面 (試坑番号 9)

位 置	安来市清水峠下方
海 抜 高	60m
地 形	山麓急斜面
傾斜(方位)	30° (N20°E)
母 材	安山岩 崩積
土 地 利 用	スギ造林地

断面形態

A₀ なし。

A₁ 0~25cm 暗褐色 (7.5YR 3/3)，小角礫を含み腐植に富む微砂質壤土，軟粒状，塊状構造発達，細小孔隙富む，粗密度中，粘り中，湿，細小根富む，A₂層に漸変。

A₂ 25~60cm+ 褐色 (7.5YR 4/3)，小・中角礫を含む，腐植を含む，壤土，単粒状，細小孔隙あり，粗密度中，粘り中，湿，細根を含む。

(3) 法勝寺土壌

法勝寺1統 (Hoj 1)

この土壌は、凝灰岩、凝灰角礫岩を母材とし図幅西半の中央部に分布する乾性褐色森林土(BA~BC)である。図幅西半では、凝灰岩類地域の標高が平均的に高くなり、200m以上の高点が各所にある。この土壌は、それら頂部や急斜面、屋根筋に出現し占める面積は広い。土層は浅いが露岩地はみられない。全般に腐植の浸透は少なく色調は淡い。A層に細粒状、または粒状構造が発達している。全層が砂質で緻密に堆積し、層位の推移は比較的是っきりしている。

コナラなどをまじえたアカマツ天然生林が多いが、生育は悪く、一部にはせき悪林になっているものもみられる。造林地として、アカマツ以外は適当でなく、屋根筋ではアカマツもあまり期待できない。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面 (試坑番号 13)

位置	西伯部西伯町倭, 大成山
海拔高	220m
地形	山頂凸型緩斜面
傾斜(方位)	2° (S)
母材	凝灰岩 残積
土地利用	アカマツ天然生林
断面形態	

- A₀ L-F : 1cm, H : 2cm, アカマツ落葉が主。
- A/(B) 0~5cm 灰黄褐色 (10YR 4/3), 小角礫あり, 砂壤土, 腐植を含む, 細粒状・粒状構造わずかに発達, 細小孔隙に富む, 粗密度密, 粘り弱, 半乾, 小根含む, 層位界判然。
- B 5~30cm 灰黄橙色 (10YR 6/4), 小角礫あり中角礫富む, 砂壤土, 腐植なし, カベ状, 細孔隙あり, 粗密度密, 粘り中, 小根含む, 層位界判然。
- (B)/C 30~40cm+ 灰黄橙色 (10YR 6/4), 中大角礫に富む, 砂壤土, 腐植なし, カベ状, 粗密度密, 粘り中, 半乾, 根なし。

法勝寺2統 (Hoj 2)

この土壌は、法勝寺1統と同一地区の凹型斜面や山麓斜面に崩落あるいは匍行堆積した適潤性褐色森林土 (BD~BE) である。砂質で土層は深く、大中小さまざまな角礫を有する。A層には軟粒状構造が発達し、腐植の浸透もよい。分布が比較的広く、凹型斜面では斜面のかなり上部まで出現している。

コナラなどをまじえたアカマツ天然生林が多く、まだ積極的に利用されているものは少ないが、古いスギの造林地や近年、植栽されたものも、かなりよい成長をしている。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面 (試坑番号 4)

位 置	能義郡伯太町安田関
海 抜 高	110m
地 形	山麓急斜面
傾斜(方向)	35° (N65°E)
母 材	凝灰岩 崩積
土 地 利 用	スギ人工林
断 面 形 態	

A₀ なし。

A 0~18cm 暗褐色 (10Y R 3/3), 小角礫に富む砂壤土, 腐植に富み軟粒状構造発達, 細孔隙含む, 粗密度中, 粘り弱, 湿, 細根含み小根あり, A/(B) 層に漸変。

A/(B) 18~40cm 暗褐色(10Y R 3/4), 小中角礫を含む砂壤土, 腐植含~(富), 単粒状, 細孔隙含む, 粗密度中, 粘り弱, 湿, 細根含み小根あり, B層に漸変。

B 40~55cm+ 褐色 (10Y R 4/4), 中大角礫に富む, 砂壤土, 腐植なし, 単粒状, 細孔隙あり, 粗密度中~(密), 粘り弱, 湿, 細根あり。

(4) 母里土壌

母里1統 (Mor 1)

この土壌は、図幅西半の北端、中海に接する地域と南端、母里附近の丘陵性山地頂部に出現する残積型の乾性褐色森林土 (BA~BC) である。この地域は、横山土壌の

分布が広いため、母里1統の出現規模はごく小さい。土層は全般に浅く、A層に堅果状・細粒状・粒状構造が、また、B層に堅果状構造が発達して、乾性土壌の特徴をよくあらわしている。細小半角礫を有する。微砂質で緻密に堆積しているものが多い。

アカマツ、コナラなどの天然生林で生育は悪い。造林地として利用するには不向きである。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面（試坑番号 42）

位 置	安来市早田
海 抜 高	90m
地 形	山頂の凸型緩斜面
傾斜(方位)	3° (S20°W)
母 材	流紋岩 残積
土 地 利 用	天然生広葉林（コナラ、ソヨゴ。アカマツわずか混生）
断 面 形 態	

- A₀ L-F : 2cm, コナラなどの広葉樹落葉枝。
- A 0~5cm 灰黄褐色 (10YR 5/3), 細半角礫を含み腐植を含む土壌, 堅果状構造発達, 細孔隙あり, 粗密度中, 粘り弱, 乾, 小根含む, B層との境判然。
- B 5~20cm 黄褐色 (10YR 5/6), 細小半角礫を含む微砂質壤土, 腐植なし, 堅果状, 粗粒状構造発達, 細孔隙あり, 粗密度密, 粘り弱, 半乾, 小根富む, 層位界明瞭。
- C 20~30cm+ 明黄褐色 (10YR 6/6), 風化流紋岩。

母里2統 (Mor 2)

この土壌は、母里1統と同一地区の凹型斜面下部、山地斜面下部に匍行または崩落堆積した適潤性褐色森林土 (Bd) である。全土層はおおむね50cm 以上あるが、腐植の浸透はあまりよくなく、全般に淡い色調をしめす。A層に軟粒状・粒状構造が混在し、B層に堅果状構造もみられる。微砂質で細小半角礫をもっている。

天然生の広葉樹林かアカマツ林となっているが、アカマツの生育は割合によい。従来、採草地として利用されていたところも少なくない。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面（試坑番号 43）

位 置 安来市早田
 海 抜 高 70m
 地 形 山麓急斜面
 傾斜(方向) 30° (S 50°W)
 母 材 流紋岩 崩積
 土地 利用 広葉樹林（採草地あと）
 断面 形態

- A₀ なし。
- A₁ 0~10cm 褐色 (7.5Y R 4/4), 礫なし, 腐植を含む微砂質壤土, 粒状・軟粒状構造混在, 小孔隙を含み中孔隙あり, 粗密度中, 粘り弱, 半乾, 小根富む, A₂層に漸変。
- A₂ 10~30cm 褐色 (7.5Y R 4/6), 細半角礫あり, 腐植を含む微砂質壤土, 粒状・軟粒状構造混在, 細孔隙を含み小孔隙あり, 粗密度中, 粘り弱, 半乾, 小根富む, 層位界判然。
- B 30~45cm 明褐色 (7.5Y R 5/6), 小半角礫あり, 腐植なし, 堅果状構造発達, 微砂質壤土, 細孔隙を含む, 粗密度密, 粘り弱, 半乾, 小中根あり, C層に漸変。
- C 45~65cm+ 灰黄褐色(10Y R 5/4), 腐朽小半角礫含む, 密な流紋岩石礫層。

(5) 壺瓶山土壌

壺瓶山1統 (Tuy 1)

この土壌は、図幅東半部の大山火山に属する山地、山麓緩斜面および近接する火山性台地に分布する、火山灰を母材とした定積型の褐色森林土である。一般に、山地の中腹以上の凸形斜面や台地の丘麓緩斜面の凸地形に分布する。土層は深く礫はふくまない。表層はやや砂質で腐植の浸透は浅い。B層以下は緻密に堆積している。

コナラなどの広葉樹林やアカマツ天然生林となっているが、アカマツの生育はやや劣る。果樹園（二十世紀梨、柿）として利用されているところがかかりある。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面（試坑番号 26）

位 置 西伯郡伯仙町日下
 海 抜 高 180m
 地 形 山麓緩斜面
 傾斜(方位) 5° (N70°W)
 母 材 火山灰 残積
 土 地 利 用 天然の針広混交林
 断面形態

- A₀ L-F : 3cm, コナラ, クマザサ落葉。
- A/(B) 7cm 褐灰色 (7.5YR 4/2), 礫なく腐植に富む砂壤土, 細かい粒状構造発達, 細孔隙に富む, 粗密度粗, 粘り零, 乾, 小根富む, 層位界判然。
- B 7~30cm 灰黄褐色 (10YR 5/4), 礫なく腐植を含む壤土, カベ状, 細孔隙あり, 粗密度密, 粘り弱, 半乾, 小根含む, 層位界判然。
- B/C 30~45cm 赤褐色 (5YR 4/6), 礫なし, 腐植なし, 構造なし, 孔隙なし, 埴土, カベ状で密, 粘り強, 半乾, 根なし。

壺瓶山 2 統

この土壌は、壺瓶山 1 統と同一地区の凹地形面に堆積した火山灰を、母材とする適潤性褐色森林土 (BD~BE) である。角礫をふくむ砂質、微砂質の深い土壌で、表層は軟粒状・粒状構造をもち、その下に塊状・堅果状構造がみられることが多い。

広葉樹林が主でアカマツは少なく、生育は中位である。せまい谷筋に多く出現しているので、アカマツの天然更新には不向きである。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面（試坑番号 19）

位 置 日野郡溝口町大内
 海 抜 高 440m
 地 形 丘陵性山地下部急斜面
 傾斜(方位) 35° (S20°E)
 母 材 火山灰を主とする。崩積

土地利用 コナラを主体とする広葉樹林

断面形態

- A₀ L-F : 3cm, コナラ, アラカシ, アカシデの落葉枝。
- A₁ 0~7cm 暗褐色 (7.5YR 3/4), 礫なし, 腐植に富む砂壤土, 粒状構造発達, 細小孔隙富む, 粗密度中, 粘り弱, 半乾, 小根含む, 部分的に菌糸あり, A₂層に漸変。
- A₂ 7~30cm 褐色 (7.5YR 4/4), 小角礫あり, 砂壤土, 腐植含む, 堅果状構造あり, 細小孔隙含む, 粗密度中, 粘り中~(強), 湿, 小根富む, A₃層に漸変。
- A₃ 30~70cm+ 褐色 (7.5YR 4/4), 角礫小あり中含む, 腐植を含む砂壤土, 単粒状, 細小孔隙あり, 粗密度中, 粘り中~(強), 湿, 小根あり。

I. 1. 2 黒色土壌

黒色土壌は, 火山性台地地域に広く分布し, 大山火山の火山灰を母材とした土壌である。主として図幅の東半に広く分布し, 黒色~黒褐色のA層が深い。定積型(鍋山1統)は礫をふくまないが, 崩積型(鍋山2統)は表層から下層まで礫をふくんでいる。鍋山1統では, アカマツの生育が非常によく, 人工・天然生の優良林分が各所にみられる。鍋山2統には, スギの造林地があり生育は良好である。

(1) 鍋山土壌

鍋山1統 (Nay 1)

この土壌は, 図幅東半部の大山火山に属する山地, 火山性台地および山麓緩斜面などの安定した地形面に広く分布する火山性の黒色土壌 (Bl, 通称, 黒ボク) である。

大山火山の放出堆積物は, 礫層をのぞいて3層になっていることが多い。上層は黒色土層, 中層は褐色土層, 下層は腐朽浮石層からなり, 上・中層はさらに2~3亜層に細分することができる。下層には, ヒル石(パーミキュライト)が多数ふくまれる。

黒色土壌は, 堆積物のうちで最表層にあり, 安山岩や火山礫層などの上をおおっていることもある。一般に, 全土層は非常に深い, 浸食によって浅くなっているものもある。典型的なものでは, 腐植に富むA層が深い。

乾燥する場所では, 細かい粒状や堅果状構造ができやすいが, 一般には軟粒状構造

が多い。礫はふくまず粘性は非常に低い。

コラナなどの広葉樹林になっているところもあるが、大部分はアカマツ林で生育は非常によい。アカマツの造林地として、図幅内で最良のところである。緩斜面は果樹園、農耕地として利用されているところも多い。

なお、地形や水分環境などの違いにより、断面形態が多少異なる黒色土壌が分布するが、分布状態の把握が困難であり、土地利用も考慮のうえ、崩積して砂礫のまじっている黒色土壌以外は鍋山1統に統合した。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面（試坑番号 48）

位 置	西伯郡大山町中嶺原
海 抜 高	270m
地 形	山麓緩斜面（火山裾野）
傾斜(方位)	2°（S75°W）
母 材	火山灰 残積（定積）
土 地 利 用	アカマツ人工林（山引苗植栽）
断 面 形 態	

- A₀ F : 5cm, アカマツ, ネザサ落葉枝。
- A₁ 0~15cm 黒褐色 (5Y R 2/2), 礫なく腐植に頗る富む壤土, 細かい粒状構造発達, 細孔隙頗る富む, 粗密度頗る粗, 粘り零, 半乾~(乾), 小根富む, 層位界判然。
- A₂ 15~30cm 黒色 (5Y R 1/1), 礫なく腐植に頗る富む壤土, 軟粒状構造やや発達, 細孔隙あり, 粗密度粗, 粘り零, 半乾, 小根あり, 層位界漸変。
- A/B 30~50cm 黒褐色 (7.5Y R 3/2), 礫なし, 壤土, 腐植に富み, 単粒状, 細孔隙あり, 粗密度中, 粘り中, 半乾, 小根あり, 層位界明瞭。
- C 50~60cm+ 黄褐色 (10Y R 5/8) の砂層。

鍋山2統 (Nay 2)

この土壌は、鍋山1統と同じ地区の沢筋、凹型斜面、急斜面下部などの凹地形面に、主として崩積した砂礫まじりの黒色土壌 (B_{1D}~E) である。全土層は深く、腐植

に富み、細礫から大礫まで混在し、微砂～砂質で、表層に軟粒状構造やまれに堅果状構造がみられる。

アカマツ広葉樹の天然林が多いが、スギの造林地もみられる。土壌条件がよくスギ造林地として活用すべきところである。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面（試坑番号 34）

位 置	西伯郡大山町鍋山
海 抜 高	540m
地 形	山腹凹型急斜面
傾斜(方位)	32° (N10° E)
母 材	火山灰を主とする（安山岩礫を含む）。崩積
土 地 利 用	スギ造林地
断 面 形 態	

A₀ L : 2cm, フラビ葉茎が主。

A₁ 0~15cm 黒色 (7.5 Y R 1/1), 小半角礫のある腐植に富む微砂質壤土, 軟粒状・堅果状・塊状構造混在, 細小孔隙含む, 粗密度中, 粘り中, 半乾, 小根富む (草本), A₂層に漸変。

A₂ 15~60cm+ 黒色 (5 Y R 1/1), 小中半角礫に富む, 腐植に富む微砂質壤土, 塊状構造発達, 細小孔隙あり, 粗密度中, 粘り(中)~強, 湿, 小根富む。

I. 1. 3 赤色土および黄赤色土

赤色土および黄赤色土は特異な分布をしめす。両者とも、主として丘陵性山地に出現するが、黄赤色土（横山2統）は標高約170m以下の山地全面をおおっている。赤色土（横山1統）はそれよりやや低く、約120m前後を境にして山地先端の突出部に多く出現する。両者ともに母材ははまだ不明確であるが、黄赤色土は下部基岩と不連続に堆積している場合が多く、基岩と異なる母材からなっているとおもわれる点がある。天然生のアカマツ・コナラの混交林になっている場合が多いが、黄赤色土は赤色土よりよい生育をしめし、アカマツ人工造林地における成長も良好である。

(1) 横山土壌

横山1統 (Yoy 1)

この土壌は、山地の先端突出部に多く出現する赤色土である。表層は有機物の影響をうけて暗色を呈するが、中・下層はあざやかな赤褐～明赤褐色で、全土層は厚く、赤色風化した腐朽半角礫をふくむ場合もある。埴質で粘りが強く緻密に堆積している。天然生のアカマツやコナラなどが混生しているが、生育はよくない。果樹園、竹林などに利用されている個所が多く、造林地として利用するには不向きである。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面 (試坑番号 6)

位 置	安来市大塚町殿川内
海 抜 高	40m
地 形	山頂緩斜面
傾斜(方位)	2° (N)
母 材	不明 残積
土 地 利 用	アカマツをわずかにまじえた広葉樹林 (畑地に隣接)
断 面 形 態	

- A₀ L:1cm 未満 コナラ落葉が主。
- R-I 0~10cm 暗褐色 (7.5Y R 3/4), 礫なし, 腐植を含む埴壤土, 粒状構造やや発達, 小孔隙富む, 粗密度中, 粘り中, 半乾, 小根富む, 層位界は明瞭。
- R-II 10~40cm 明赤褐色 (2.5Y R 5/8), 風化中角礫含む, 腐植なし, 埴土, カベ状で密, 粘り中~強, 半乾, 小根富む, III層へ漸変。
- R-III 40~60cm 赤橙色 (10Y R 5/8), 風化中角礫を含む埴土, 腐植なし, カベ状で密, 粘り中~強, 半乾, 小根あり, 層位界判然。
- C 60cm 以下 灰橙色 (5Y R 6/6), 花崗岩風化細砂礫に富む, 密で粘り弱, 湿。

横山2統 (Yoy 2)

この土壌は、横山I統と同様、各種の基岩をおおって山地に広く分布する黄赤色上である。横山I統にくらべ、黄色味が強く、土層はやや深い。標高170m 前後まで出

現し、1統より高位置まで分布し、地形にあまり関係なく山地全面に広がっている。表層は比較的腐植に富み、黒褐～暗褐色で、軟粒状や粒状構造がよくみられる。堅果状構造は表層中下部に発達する場合が多い。礫は非常に少なく、風化腐朽礫をふくむ場合がある。中・下層は、黄褐～明黄褐色で腐植はない。塊状・堅果状構造が発達する場合もあるが、一般にはカベ状で緻密に堆積しているものが多く、埴質である。

アカマツの生育が比較的良好で、天然生アカマツ林が多い。尾根筋近くまで植栽されたアカマツ林もあり、生長は良好である。しかし、造林面積はまだ少なく広葉樹林として放置されているところが多い。

この土壌の代表断面形態は、次のとおりである。

代表断面（試坑番号 36）

位 置	能義部伯太町母里字招
海 抜 高	130m
地 形	山頂緩斜面
傾斜(方位)	2° (S75°E)
母 材	不明 残積
土 地 利 用	アカマツ天然林
断 面 形 態	

- | | |
|------------------------|---|
| A ₀ | L : 1cm, F : 4cm, アカマツ, クマザサ落葉枝が主。 |
| A 0~5cm | 黒褐色(10YR 2/3), 礫なく腐植に富む埴土, 軟粒状構造発達, 細孔隙あり, 粗密度粗~中, 粘り中, 半乾, 大中根あり小根富む, B ₁ 層に漸変。 |
| B ₁ 5~25cm | 褐色(10YR 4/4), 礫なく腐植を含む埴壤土, 塊状構造発達, 粗密度中, 粗り中, 半乾, 小中根あり, B ₂ 層に漸変。 |
| B ₂ 25~40cm | 明黄褐色(7.5YR 6/6), 礫なし, 腐植なし, 埴~埴壤土, カベ状, 細孔隙あり, 粗密度粗, 粘り中, 半乾, 小・中根あり, (B)C層に漸変。 |

I. 2 低地（一部、台地をふくむ）地域の土壌

I. 2. 1 黒色土壌

これらの土壌は、断面の全層あるいは主要土層が黒色系土色（マンセル表色法による明度が3またはそれ以下、彩度2またはそれ以下、明度が3の場合は彩度は1またはそれ以下）を呈し、腐植含量5%以上、燐酸吸収係数1500以上の腐植質火山灰土層からなる土壌である。

本図幅内においては、大山西麓の台地、越敷山周縁の山地および台地ぞいの低地に主として分布し、畑、牧草、果樹園また水田として利用されている。

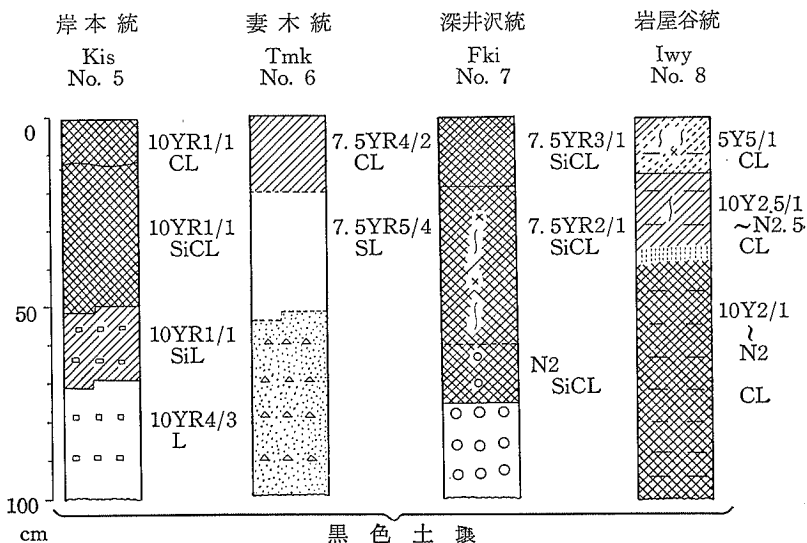
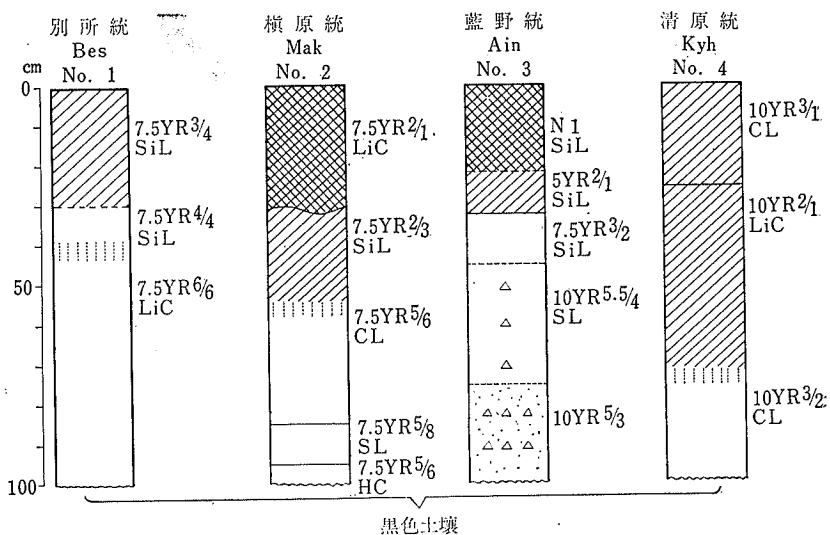
黒色土壌は、断面形態の違いに基づいて、次の13の土壌統に細分した。

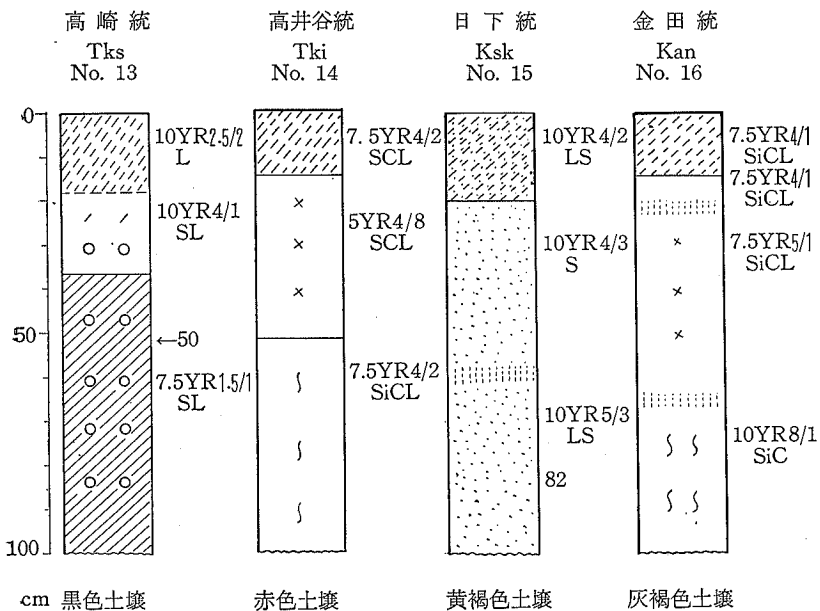
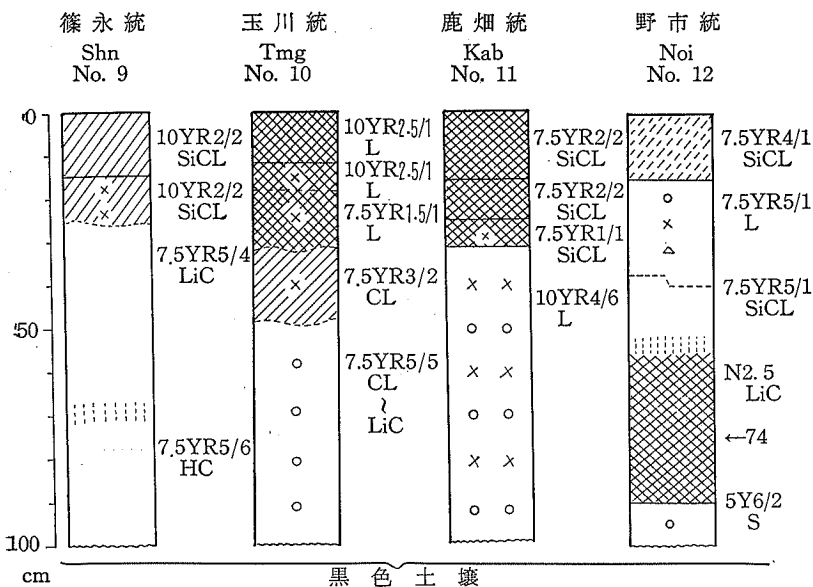
1. 別所統
2. 槇原統
3. 藍野統
4. 清原統
5. 岸本統
6. 妻木統
7. 深井沢統
8. 岩屋谷統
9. 篠永統
10. 玉川統
11. 鹿畑統
12. 野市統
13. 高崎統

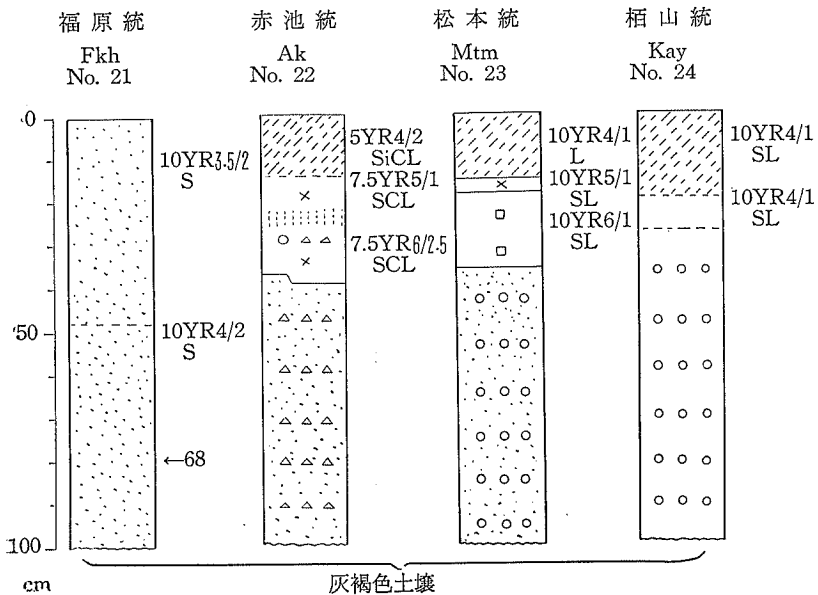
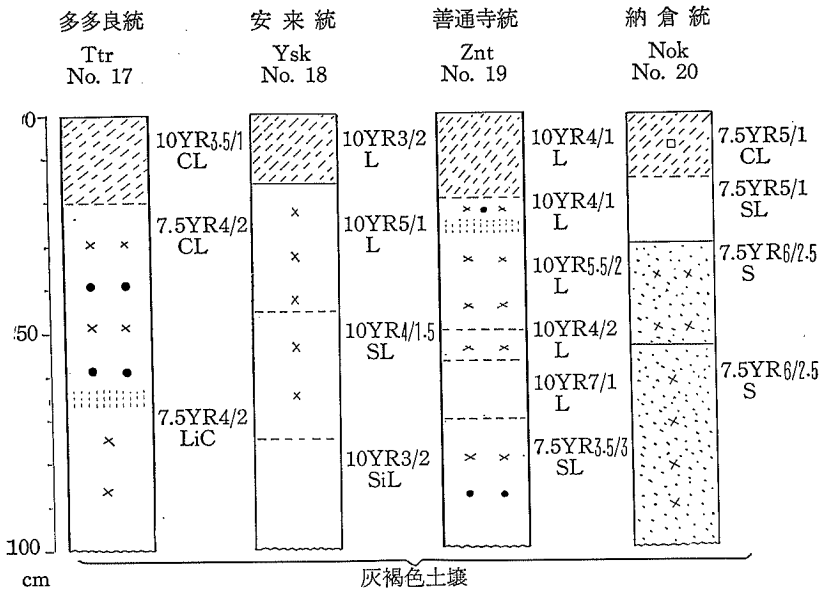
別所統 (Bes)

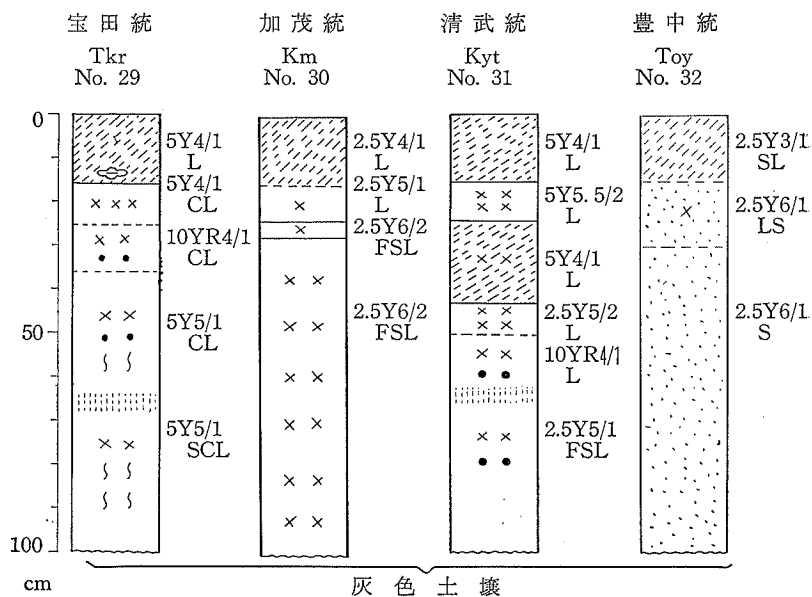
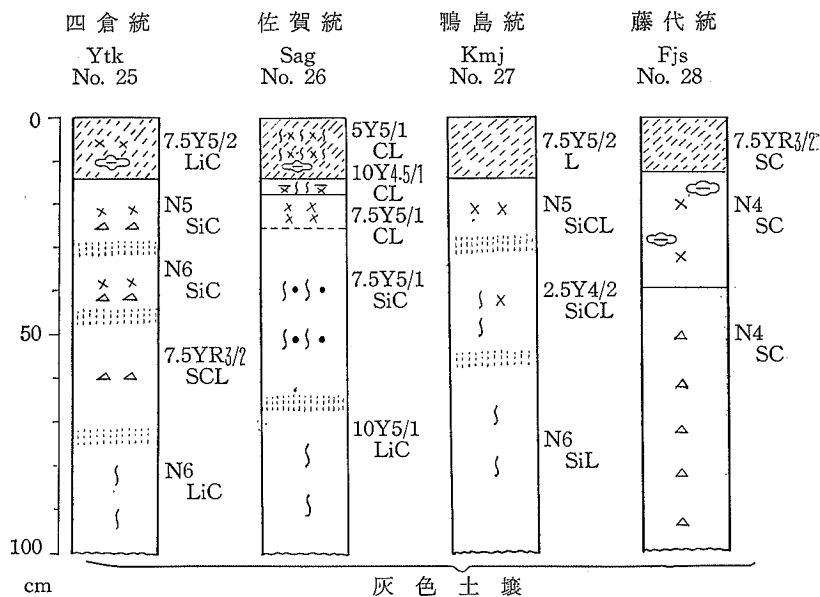
この土壌は、比較的古い火山灰を母材とする黒色土壌で、本図幅のほぼ中央部、日野川と法勝寺川にかこまれる台地面上の西端部に主として分布する。腐植に富むA層につづいて、彩度の高い黄褐色、強粘質で厚いB層がみられる。母材は火山灰であるが風化がすすみ、火山灰土壌の特徴はかなり弱くなっている。燐酸吸収係数は1000前後である。表層の腐植層の燐酸吸収係数はもちろん1500以上である。主として樹園地

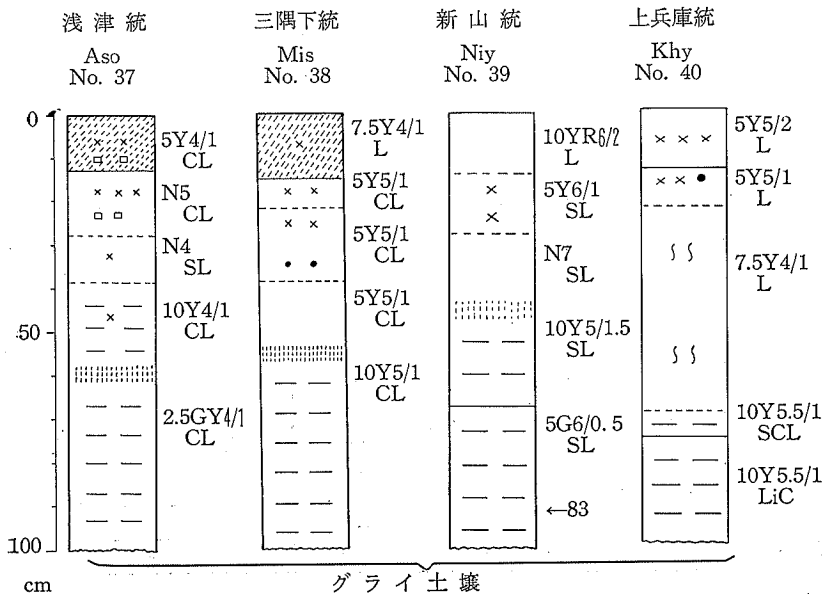
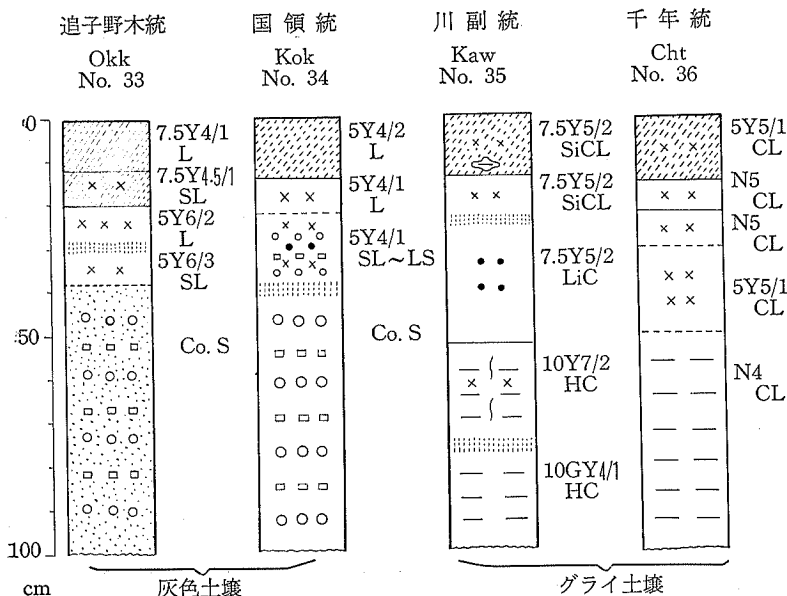
低地地域（一部、台地を含む）の土壤断面図

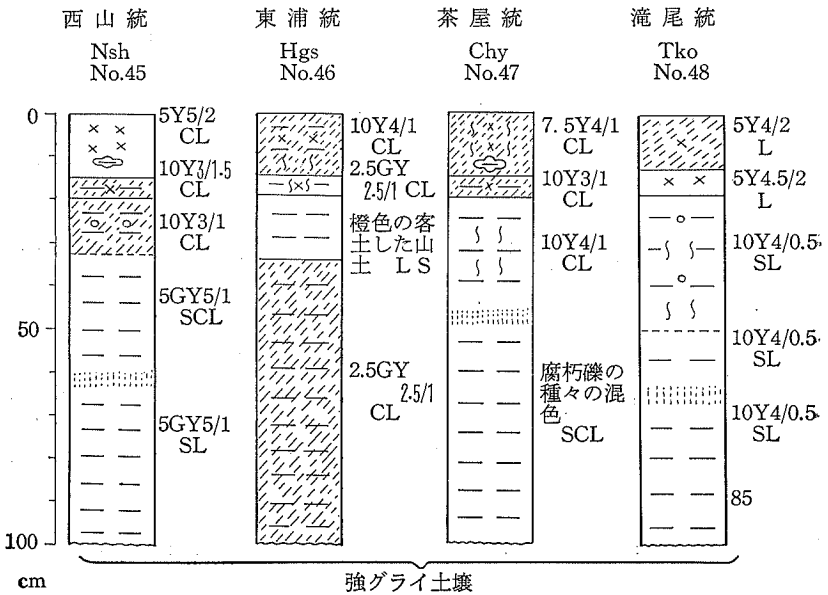
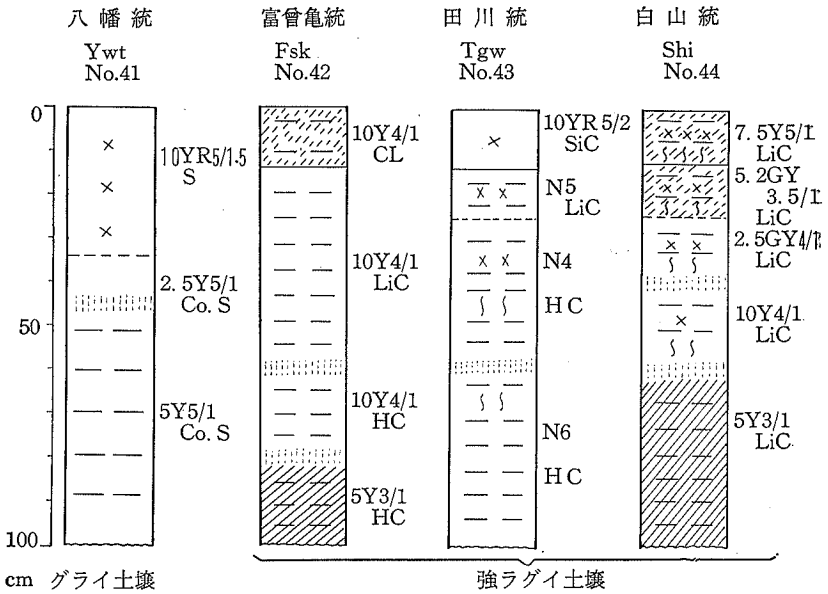


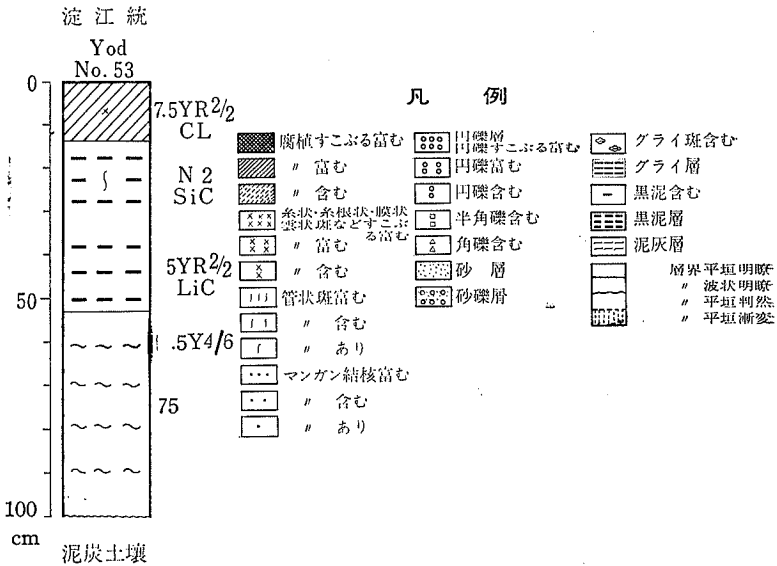
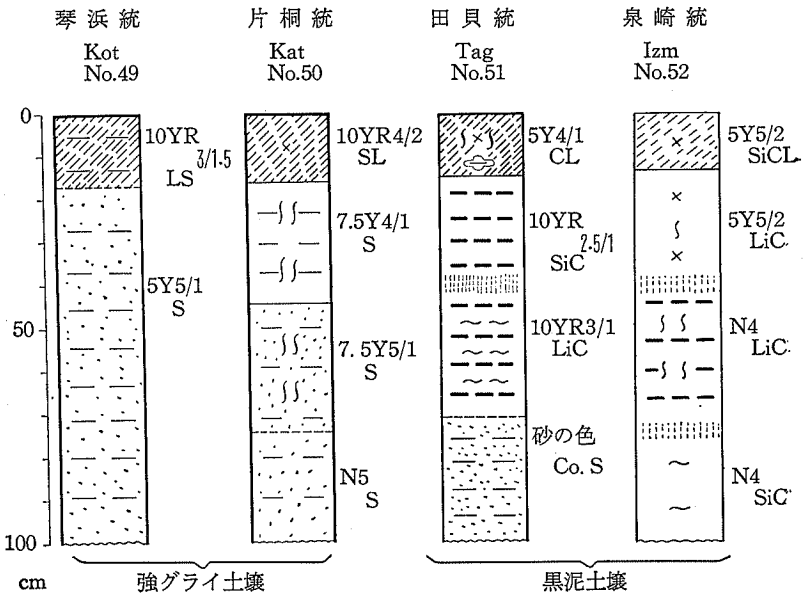












普通畑として利用されている。

代表断面（試坑番号 1）

位置 米子市別所

断面形態

- 第1層 (A_p) 0~30cm 暗褐色 (7.5Y R 3/4), 腐植に富む, SiL, ち密度 17, 粘着性中, 可塑性中, 乾, 層界平坦判然。
- 第2層 (B₁) 30~40cm 褐色 (7.5Y R 4/4), 腐植を含む, SiL, 細塊状構造, 細孔富む, ち密度18, 粘着性中, 可塑性中, 乾, 層界平坦漸変。
- 第3層 (B₂) 40cm以下 明橙褐色 (7.5Y R 6/6), LiC, 塊状構造, ち密度 22, 粘着性強, 可塑性強, 乾。

槇原 統 (Mak)

この土壌は、風積の火山灰を母材として生成発達した黒色土壌で、腐植にすこぶる富む黒ないし黒褐色のA層について、彩度の高い黄褐色で粘質のB層をもっている。B層下には、カキコと呼ばれる風化浮石層をはさんで、強粘質の黄褐色土層が存在している。本図幅内においては、大山町中槇原、名和町門前などの緩波状性台地に主として分布し、普通畑として利用されている。強酸性で自然肥沃度は低い。

代表断面（試坑番号 2）

位置 西伯郡大山町赤松美濃

断面形態

- 第1層 (A_p) 0~30cm 黒色 (7.5Y R 2/1), 腐植に頗る富む, LiC, 細孔あり, ち密度20, 粘着性弱, 可塑性弱, 乾, 層界波状明瞭。
- 第2層 (A₁₂) 30~55cm 黒褐色 (7.5Y R 2/3), 腐植に富む, SiL, 細孔あり, ち密度20, 粘着性弱, 可塑性弱, 乾, 層界平坦漸変。
- 第3層 (B) 55~86cm 明褐色 (7.5Y R 5/6), CL, 細孔に富む, ち密度 17, 粘着性中, 可塑性中, 半湿, 層界平坦明瞭。
- 第4層 (II B) 86~96cm 明褐色 (7.5Y R 5/8), SL, 細孔含む, ち密度 18, 粘着性弱, 可塑性弱, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第5層 (III B) 96cm以下 明褐色 (7.5Y R 5/6), HC, 小孔あり, 粘着性中, 可塑

性中，半湿。

藍野統 (Ain)

この土壤は，風積の火山灰を母材として生成した黒色土壤であり，腐植にすこぶる富む黒ないし黒褐色のA層をもつが，B層の土性があらく，かつB層下にマサと呼ばれる固結砂礫層（火砕流）が出現する点で，他の土壌統と異なる。主として岸本町の水無原，溝口町の小銭原に分布し，普通畑あるいは牧草地として利用されている。

代表断面（試坑番号 3）

位置 西伯郡岸本町藍野

断面形態

- 第1層 (Ap) 0~22cm 黒色 (N 1)，腐植に頗る富む，SiL，ち密度 18，粘着性弱，可塑性弱，乾，層界平坦判然。
- 第2層 (A₁₂) 22~32cm 黒褐色 (5YR 2/1)，腐植に富む，SiL，ち密度 20，粘着性弱，可塑性弱，乾，層界平坦明瞭。
- 第3層 (II B₁) 32~45cm 黒褐色 (7.5YR 3/2)，腐植を含む，SiL，ち密度 19，粘着性弱，可塑性弱，半乾，層界平坦判然。
- 第4層 (II B₂) 45~75cm 灰黄褐色 (10YR 5.5/4)，SL，半風化半角礫を含む，ち密度18，半湿，層界不規則判然。
- 第5層 (II C) 75cm以下 灰黄褐色 (10YR 5/3) の固結砂礫層。

清原統 (Kyh)

この土壤は，黒色ないし黒褐色の厚い腐植質火山灰層をもつ黒色土壤である。溝口町榎水原の一部，大平原から岸本町の清原にかけて分布する。梨，桃園として，また普通畑として利用されている。

代表断面（試坑番号 4）

位置 西伯郡岸本町藍野

断面形態

- 第1層 (Ap) 0~25cm 黒褐色 (10YR 3/1)，腐植に富む，CL，ち密度13，粘着性中，可塑性弱，乾，層界平坦明瞭。
- 第2層 (A₁₂) 25~72cm 黒色 (10YR 2/1)，腐植に富む，LiC，細孔含む，ち密度 20，粘着性中，可塑性弱，半乾，層界平坦漸変。

第3層 (B₁) 72cm以下 黒褐色 (10YR 3/2), CL, 腐植を含む, ち密度18, 粘着性中, 可塑性中, 半湿。

岸本統 (Kis)

この土壌は, 黒色の腐植質火山灰層が厚く, 30~60cm 以内から火山性砂礫層の出現する土壌で, 作土下の主要土性は粘質である。全層礫をふくむが, 耕地では除礫しているため, 礫層の出現位置は若干深くなっている。

大山西麓岸本原台地に主として分布し, 樹園地, 一般そ菜畑として利用されている。粘着性, 可塑性は弱, 保水力は大であるが透水性が大きいので, 春~夏季には過干のおそれがある。保肥力は中庸であるが, 固定力は大である。石灰苦土含量が少なく強酸性で, 自然肥沃度は低い。

代表断面 (試坑番号 5)

位置 西伯郡岸本町岸本原

断面形態

- 第1層 (A_p) 0~13cm 黒色 (10YR 1/1), 腐植に頗る富む, 半風化小半角礫をわずかに含む, CL, ち密度 16, 粘着性弱, 可塑性弱, 半乾, 層界波状明瞭。
- 第2層 (A₁₂) 13~50cm 黒色 (10YR 1/1), 腐植に頗る富む, 半風化半角小礫をわずかに含む, SiCL, 細孔含む, ち密度 21, 粘着性弱, 可塑性弱, 半乾, 層界不規則明瞭。
- 第3層 (A_C) 50~70cm 黒色 (10YR 1/1), 腐植に富む, 半風化半角小礫頗る富む, SiL, 細孔あり, ち密度 25, 粘着性弱, 可塑性弱, 湿, 層界不規則明瞭。
- 第4層 (C) 70cm以下 灰黄褐色 (10YR 4/3), 半風化小中半角礫に頗る富む, L, ち密度 27, 90cm 以下には中大礫含む。

妻木統 (Tmk)

この土壌は, 30~60cm から密度 26~30 の火山砂礫層 (マサ) の出現する土壌である。表土は一般に粘質ないし壤質で腐植に富むが, 土色は灰褐色の場合が多い。磷酸吸収係数は 1000~1500 で黒色土壌と黄褐色土壌との中間的性格をもつものとかんがえられる。大山町妻木から荘田, 野田にかけて点在し, 畑地として利用されている。

代表断面（試坑番号 6）

位置 西伯郡大山町妻木能得

断面形態

- 第1層 (A_p) 0~20cm 褐灰色 (7.5YR 4/2), 腐植に富む, CL, ち密度9, 粘着性中, 可塑性中, 層界平坦判然。
- 第2層 (B) 20~55cm 灰褐色 (7.5YR 5/4), SL, ち密度 18, 粘着性弱, 可塑性中, 湿, 層界不規則判然。
- 第3層 (C) 55cm 以下 火山砂礫層

深井沢統 (Fki)

この土壤は、全層あるいは作土下の主要部分が黒色、粘質の腐植質火山灰層からなる黒色土壤である。本図幅内では、伯仙町の下泉から上泉、溝口町の長山から谷川にかけての山麓ぞいの低地、開析された台地丘陵地間の谷床面および岸本町岸本原台地にみられる。一般に土層は厚いが、岸本原では、下層 60cm 以下に礫層が存在する。

代表断面（試坑番号 7）

位置 西伯郡岸本町大原千町

断面形態

- 第1層 (A_p) 0~18cm 黒褐色 (7.5YR 3/1), 腐植に頗る富む, SiCL, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (A₁₂) 18~60cm 黒色 (7.5YR 2/1), 腐植に頗る富む, SiCL, 糸根状, 管状斑わずかに含む, 半湿, 層界平坦判然。
- 第3層 (A₁₃) 60~75cm 黒色 (N2), 腐植に頗る富む, 細小腐朽礫を含む, SiCL。
- 第4層 (II C) 75cm 以下 礫層。

岩屋谷統 (Iwy)

この土壤は、ほぼ全層が黒色の腐植質火山灰層からなり、既述の深井沢統に類似の形態をとるが、前者にくらべて排水が悪く、全層あるいは作土下の主要部分が、顕著なピリジル反応を呈する点で異なる。

米子市別所から岩屋谷にかけての台地およびその南につづく丘陵性山地下の狭少な谷床面に、主として分布する。

代表断面（試坑番号 8）

位 置 米子市別所

断面形態

- 第1層 (A_{pg}) 0~15cm 黄灰色 (5 Y 5/1), 腐植を含む, CL, 管状および膜状斑含む, ピリジル反応顕著, ち密度 3, 潤, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (B_{G1}) 15~36cm 灰黒色ないし黒色 (10Y 2.5/1~N2.5), 腐植に富む, CL 管状斑あり, ピリジル反応顕著, ち密度16, 湿, 層界平坦漸変。
- 第3層 (B_{G2}) 36cm以下 黒色 (10Y 2/1~N2), 腐植に頗る富む, CL, ピリジル反応顕著, ち密度12, 潤。

篠 永 統 (Shn)

この土壤は、腐植に富む黒色ないし暗褐色のA層について、強粘質の黄褐色土層をもつ黒色土壤であり、作土下に糸根状斑をふくむ。A層上部は、地形的関係により二次的影響をうけて、灰褐色を呈する場合もある。腐植層の磷酸吸収係数は1500前後であるが、黄褐色土層では1000ないし1300である。

米子市諏訪から岸本町岩屋谷にかけて主として分布し、水田として利用されている。

代表断面 (試坑番号 9)

位 置 西伯郡岸本町岩屋谷

断面形態

- 第1層 (A_p) 0~15cm 黒褐色 (10Y R 2/2), 腐植に富む, SiCL, ち密度 15, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (A_{cg}) 15~25cm 黒褐色 (10Y R 2/2), 腐植に富む, SiCL, 糸根状斑含む, 弱塊状構造, ち密度15, 湿, 層界波状判然。
- 第3層 (B₁) 25~75cm 灰褐色 (7.5Y R 5/4), LiC, ち密度 25, 湿, 層界平坦漸変。
- 第4層 (B₂) 75cm以下 明褐色 (7.5Y R 5/6), HC, 粘着性極強, 可塑性強。

玉 川 統 (Tmg)

この土壤は、灰黒色ないし黒色の腐植質火山灰層につづいて黄褐色火山灰層をもつ土壤である。糸根状および膜状斑がみとめられ、また作土下にベンチジン反応がみら

れる。作土下の平均土性は粘質である。

主として溝口町の大山西麓台地上にみられ、水田として利用されている。

代表断面（試坑番号 10）

位 置 日野郡溝口町金屋谷

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~12cm 黒色ないし黒褐色 (10YR 2.5/1), 腐植に頗る富む, 風化・腐朽細小礫をわずかに含む, L, 弱塊状, ち密度13, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (Acg) 12~18cm 黒色ないし黒褐色 (10YR 2.5/1), 腐植に頗る富む, 風化・腐朽細小礫をわずかに含む, L, 中度の柱状構造, やや鮮明な糸根状斑あり, ち密度21, 半乾, 層界平坦判然。
- 第3層 (Bgi) 18~31cm 黒色ないし黒褐色 (7.5YR 1.5/1), 腐植に頗る富む, L, 風化・腐朽細小礫わずかに含む, 中度柱状構造, 糸根状斑あり, ベンチジン反応あり, ち密度25, 半乾, 層界波状判然。
- 第4層 (Bg₂) 31~47cm 黒褐色 (7.5YR 3/2), 腐植に富む, 風化・腐朽細小礫をわずかに含む, CL, 不鮮明糸根状斑あり, ち密度21, 半乾, 層界波状判然。
- 第5層 (Bg₃) 47cm以下 灰褐色ないし明褐色 (7.5YR 5/5), 腐植を含む, 風化・腐朽細小礫を含み半風化大礫あり, CL~LiC, 弱塊状構造, ち密度17, 湿。

鹿畑統 (Kab)

この土壌は、黒色ないし黒褐色の腐植質火山灰層につづいて黄褐色土層をもつ黒色土壌であり、作土下の土性は壤質である。糸根状および膜状斑をふくむ。主として溝口町の大山西麓台地上にみられ、水田として利用されている。

代表断面（試坑番号 11）

位 置 日野郡溝口町大内

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~17cm 黒褐色 (7.5YR 2/2), 腐植に頗る富む, SiCL, ち密度

7, 湿, 層界平坦判然。

第2層 (A_{cg}) 17~26cm 黒褐色 (7.5YR 2/2), 腐植に頗る富む, SiCL, ち密度9, 湿, 層界平坦判然。

第3層 (B_{g1}) 26~31cm 黒色 (7.5YR 1/1), 腐植に頗る富む, SiCL, 角塊状構造, 小孔含む, 糸根状斑含む, 湿, 層界平坦明瞭。

第4層 (B_{mo}) 31cm以下 褐色 (10YR 4/6), L, 塊状構造, 小孔あり, 糸状斑・膜状斑富む, ち密度20, 湿。

野市統 (Noi)

この土壌は, 灰色または灰褐色土層につづいて腐植質火山灰層の出現する土壌で, 土性は粘質である。名和町, 大山町, 伯仙町の山麓ぞいの低地, 台地間の比較的狭少な谷床面などに主として分布し, 水田として利用されている。

代表断面 (試坑番号 12)

位 置 西伯郡名和町古御堂

断面形態

第1層 (A_{pg}) 0~17cm 褐灰色 (7.5YR 4/1), 腐植を含む, SiCL, ち密度8, 粘着性弱, 可塑性中, 層界平坦明瞭。

第2層 (B_{g1}) 17~36cm 褐灰色 (7.5YR 5/1), 細円および半角礫含む, L, 塊状構造, 細孔含む, 小孔あり, 糸根状斑含む, ち密度21, 粘着性弱, 可塑性中, 層界不規則判然。

第3層 (B_{g2}) 36~54cm 褐灰色 (7.5YR 5/1), 腐植を含む, SiCL, 細孔含む, 膜状および糸根状斑あり, ち密度11, 粘着性中, 可塑性中, 層界平坦漸変。

第4層 (II A_g) 54~90cm 黒色ないし灰黒色 (N 2.5), 腐植に頗る富む, LiC, 細小孔あり, 膜状管状斑あり, ち密度11, 粘着性强, 可塑性強, 層界平坦明瞭。

第5層 (C) 90cm以下 黄灰色 (5Y 6/2), S, 細礫含む, 湧水面 74cm。

高崎統 (Tks)

この土壌は, 野市統と同様, 灰色または灰褐色土層につづいて腐植質火山灰層の出現する土壌で, 土性は壤質である。大山町および淀江町の海岸に近い扇状地に分布

し、水田として利用されている。

代表断面（試坑番号 13）

位 置 西伯郡淀江町今津

断面形態

第1層 (Apg) 0~18cm 黄褐灰色 (10YR 2.5/2), 腐植を含む, L, 層界平坦判然。

第2層 (Bg) 18~37cm 黄褐灰色 (10YR 4/1), 細小円礫に富む, SL, 糸根状斑富む, 層界平坦明瞭。

第3層 (II A) 37cm以下 黒色 (7.5YR 1.5/1), 腐植に富む, 細小円礫に富む, S L, 湧水面50cm。

1. 2. 2 赤色土壌

これらの土壌は、断面中に赤色土層（マンセル表色法による色相が5YRまたはそれより赤く彩度が3またはそれ以上の土色を呈する層）をもち、腐植質火山灰層・黒泥層・泥炭層・グライ層をもたないことを特徴とする。本土壌群に属する土壌統は、高井谷統一つである。

高井谷統 (Tki)

この土壌は、鍋山安山岩に由来する洪積世堆積物を母材とする土壌で、作土下の主要土層は赤褐色を呈し、土性は粘質である。赤褐色土層は角塊状構造をしめし、糸状糸根状の斑紋をふくむが、またベンチジン反応がきわめて顕著である。赤褐色土層につづき管状斑をふくむ粘質な灰褐色土層がみられる。作土の土性も粘質である。

本土壌は、淀江町高井谷から稲吉にかけての山麓緩斜面に帯状に分布し、階段状水田として利用されているが、分布面積は狭少である。

代表断面（試坑番号 14）

位 置 西伯郡淀江町高井谷

断面形態

第1層 (Apg) 0~15cm 褐灰色 (7.5YR 4/2), 腐植を含む, 細小半角, 角礫をわずかに含む, SCL, ち密度10, 粘着性中, 可塑性中, 湿, 層界平坦明瞭。

- 第2層 (Bg₁) 15~51cm 赤褐色 (5YR 4/8), 中角礫をわずかに含む, SCL, 角塊状構造, 細孔富む, 糸状, 糸根状斑を含む, ベンチジン反応極めて顕著, ち密度23, 粘着性中, 可塑性中, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第3層 (Bg₂) 51cm以下 褐灰色 (7.5YR 4/2), SiCL, 管状斑をわずかに含む, 粘着性強, 可塑性中, 湿。

I. 2. 3 黄褐色土壌

これらの土壌は, 断面の全層または主要土層が黄褐色系土色 (色相は7.5YR~7.5Yで彩度3またはそれ以上) を呈し, 泥炭層・黒泥層・グライ層・腐植質火山灰層をもたないことを特徴とする。本土壌群に属する土壌統は, 日下統一つである。

日下統 (Ksk)

この土壌は, 全層が砂質で, 作土下の主要土層は黄褐色系土色を呈する。保肥力, 固定力ともに低く, 塩基状態不良で自然肥沃度はきわめて低い。佐陀川の河岸ぞい, 伯仙町下郷, 河岡, 日下などに主として分布し, 飼料作物, 西瓜, 桑, 柿などが作付けられ, 勝手畑として利用されている。

代表断面 (試坑番号 15)

位 置 西伯郡伯仙町井手の上

断面形態

- 第1層 (Ap) 0~20cm 黄褐灰色 (10YR4/2), 腐植を含む, LS, ち密度14, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (C₁) 20~60cm 灰黄褐色 (10YR 4/3), S, 細孔含む, ち密度17, 層界平坦漸変。
- 第3層 (C_{2g}) 60cm以下 黄褐灰色 (10YR5/2), LS, 細孔あり, 紫がかった雲状斑 (Mn) あり, ち密度16, 湧水面82cm。

I. 2. 4 灰褐色土壌

これらの土壌は, 断面の全層または主要土層が灰褐色系土色 (色相が 10R~10YRで彩度3未満) を呈し, 断面内に泥炭層・黒泥層・グライ層・腐植質火山灰層をもた

ないことを特徴とする。

本図幅内においては、阿弥陀川扇状地・日野川扇状地・海岸の砂州・砂丘地帯に主として分布し、また法勝寺川上流にも若干みられる。図幅内で、最も分布面積の大きな土壌群である。土性・礫層の有無・マンガン結核の有無などにより、次の9つの土壌統に細分した。

1. 金田統
2. 多多良統
3. 安来統
4. 善通寺統
5. 納倉統
6. 福原統
7. 赤池統
8. 松本統
9. 栢山統

金田統 (Kan)

この土壌は、作土下の主要土色が灰褐色を呈する粘質の土壌で、全層斑紋を含有するが、点状あるいは結核状マンガン沈積物は存在しない。淀江町福岡から大山町富岡にかけて主として分布し、水田として利用されている。

代表断面 (試坑番号 16)

位 置 西伯郡大山町富岡

断面形態

- 第1層 (A_{pg}) 0~15cm 褐灰色 (7.5YR 4/1), 腐植を含む, SiCL, ち密度12, 粘着性強, 可塑性中, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (B_{g1}) 15~21cm 褐灰色 (7.5YR 5/1), 腐植を含む, SiCL, 細孔あり, 膜状, 糸根状斑あり, ち密度20, 粘着性強, 可塑性中, 湿, 層界平坦漸変。
- 第3層 (B_{g2}) 21~65cm 褐灰色 (7.5YR 5/1), 腐植を含む, SiCL, 角塊状構造, 細孔含む, 糸根状斑含む, 粘着性強, 可塑性強, 湿, 層界平坦漸変。

第4層 (Bg₃) 65cm以下 淡黄褐灰色 (10YR8/1), SiC, 管状斑含む, 粘着性極強,
可塑性中, 湿

多多良統 (Ttr)

この土壌は, 作土下の主要土色が灰褐系土色を呈する粘質な土壌で, 下層土中にマンガン結核がみられる。本図幅内においては, 淀江町高井谷北部地域および法勝寺川上流の会見町市山, 朝金, 井ノ上また西伯町小原から西にかけて分布し, 水田として利用されている。

代表断面 (試坑番号 17)

位置 西伯郡淀江町福井

断面形態

第1層 (Apg) 0~20cm 黒褐色ないし黄褐灰色 (10YR3.5/1), 腐植を含む, CL, 粘着性中, 可塑性中, 湿, 層界平坦判然。

第2層 (Bg₁) 20~65cm 褐灰色 (7.5YR 4/2), CL, 糸根状斑紋富む, マンガン結核含む, 粘着性中, 可塑性強, 湿, 層界漸変。

第3層 (Bg₂) 65cm以下 褐灰色 (7.5YR 4/2), LiC, 糸根状斑紋含む, 粘着性強, 可塑性強。

安来統 (Ysk)

この土壌は, 全層あるいは作土下の主要土層が灰褐色系土色を呈する, 壤質の土壌である。排水良好で, 斑紋を含むが, マンガン結核はみられない。

本図幅内においては, 主として大山町, 伯仙町の大山西北麓につづく扇状地面に分布し, 二毛作田として利用されている。

代表断面 (試坑番号 18)

位置 西伯郡大山町所子

断面形態

第1層 (Apg) 0~16cm 黒褐色 (10YR 3/2), 腐植を含む, 半角細礫をわずかに含む, L, ち密度12, 粘着性弱, 可塑性弱, 湿, 層界平坦明瞭。

第2層 (Bg₁) 16~46cm 黄褐灰色 (10YR 5/1), 半角細礫をわずかに含む, L, 角塊状構造, 細孔含む, 糸根状斑含む, ち密度22, 粘着性弱

可塑性弱，湿，層界平坦判然。

第3層 (Bg₂) 46~75cm 黄褐灰色 (10YR 4/1.5)，半角細礫わずかに含む，SL，角塊状構造，細孔含む，糸根状斑含む，ち密度22，粘着性弱
可塑性弱，湿，層界平坦判然。

第4層 (Bg₃) 75cm以下 黒褐色 (10YR 3/2)，腐植を含む，半角細礫わずかに含む
SiL，細孔含む，糸根状斑あり，ち密度20，粘着性中，可塑性中，湿。

善通寺統 (Znt)

この土壌は，ほぼ全層が灰褐色系土色を呈する壤質の土壌で，安来統と類似の形態をとるが，マンガン結核を含有する点で前者と異なる。大山町平から清原，米子市上新印下新印，岸本町遠藤などの扇状地に，また西伯町小原附近の法勝寺川流域の冲積低地に分布し，二毛作田として利用されている。

代表断面 (試坑番号 19)

位 置 米子市春日上新印

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~20cm 黄褐灰色 (10YR 4/1)，腐植を含む，L，雲状斑あり，ち密度19，粘着性弱，可塑性弱，層界平坦判然。
- 第2層 (Bg₁) 20~25cm 黄褐灰色 (10YR 4/1)，L，糸根状斑に富みマンガン小結核あり，ち密度24，粘着性弱，可塑性弱，湿，層界平坦漸変。
- 第3層 (Bg₂) 25~50cm 黄褐灰色 (10YR 5.5/2)，L，塊状構造，糸根状斑富む，ち密度23，粘着性弱，可塑性中，湿，層界平坦判然。
- 第4層 (Bg₃) 50~58cm 黄褐灰色 (10YR 4/2)，腐植を含む，L，糸根状斑富む，ち密度20，粘着性中，可塑性中，湿，層界平坦判然。
- 第5層 (Bg₄) 58~70cm 淡黄褐灰色 (10YR 7/1)，L，斑紋結核なし，粘着性弱，可塑性弱，湿，層界平坦判然。
- 第6層 (Bg₅) 70cm以下 灰黄褐色ないし暗褐色 (7.5YR 3.5/3)，SL，糸根状斑に富みマンガン結核含む，粘着性弱，可塑性弱，湿。

納倉統 (Nok)

この土壌は、作土をのぞくほぼ全層が灰褐色土色を呈する砂質の土壌である。地下水位は比較的低く、作土下のほぼ全層に斑紋がみられる。本図幅内においては、大山町大山口から海岸にかけての扇状地上に主として分布し、二毛作田としてまた一部、畑地として利用されている。

代表断面（試坑番号 20）

位 置 西伯郡大山町所子

断面形態

- 第1層 (A_{pg}) 0~17cm 褐灰色 (7.5YR 5/1), 腐植を含む, 半角細礫含む, CL, ち密度13, 粘着性中, 可塑性弱, 湿, 層界平坦判然。
- 第2層 (B_{g1}) 17~30cm 褐灰色 (7.5YR 5/1), 半角細礫含む, SL, 細孔含む, 糸根状斑あり, ち密度22, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第3層 (B_{g2}) 30~53cm 褐灰色~灰橙色 (7.5YR 6/2.5), S, 雲状斑富み糸根状斑含む, ち密度22, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第4層 (B_{g3}) 53cm以下 褐灰色~灰橙色 (7.5YR 6/2.5), S, 細孔含み小孔あり, 雲状斑含み糸根状斑あり, ち密度19, 湿, 82cm以下潤。

福原統 (Fkh)

この土壌は、ほぼ全層が灰褐色土色を呈する砂質の土壌である。弓ヶ浜砂州および砂丘地帯に広く分布し、畑地として利用されるほか桑園、果樹園としても利用されている。

代表断面（試坑番号 21）

位 置 米子市和田町下和田

断面形態

- 第1層 (A_p) 0~48cm 黄褐灰色ないし黒褐色 (10YR 3.5/2), S, 斑紋結核なし, 半湿, 層界平坦判然。
- 第2層 (C) 48cm以下 黄褐灰色 (10YR 4/2), S, 斑紋結核なし, 湿ないし潤, 湧水面68cm。

赤池統 (Ak)

この土壌は、30~60cm 以内から砂礫層の出現する粘質な灰褐色土壌である。砂礫層は細円礫を混入するが、その主体は小中角礫でマサとよばれているものである。本

図幅内においては、大山町長田附近の緩傾斜性台地上に分布し、二毛作田として利用されている。

代表断面（試坑番号 22）

位 置 西伯郡大山町長田

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~15cm 褐灰色 (5YR4/2), 腐植を含む, 小円礫および小角礫あり
SiCL, ち密度10, 粘着性中, 可塑性中, 湿, 層界平坦判然。
- 第2層 (Bg₁) 15~25cm 褐灰色 (7.5YR5/1), SCL, 細孔含む, 糸根状斑含む, ち
密度17, 粘着性中, 可塑性強, 湿, 層界平坦漸変。
- 第3層 (Bg₂) 25~36cm 褐灰色ないし灰橙色 (7.5YR6/2.5), 細円礫含み小中角礫
に富む, SCL, 細孔含む, 糸根状斑含む, ち密度20, 湿,
層界不規則明瞭。
- 第4層 (C) 36cm以下 細小中角礫に頗る富む砂礫層。

松本統 (Mtm)

この土壌は、30~60cm 以内から砂礫層の出現する壤質ないし砂質の灰褐色土壌である。本図幅内では、岸本町から伯仙町、米子市にかけて、主として日野川の右岸ぞいに帯状に分布する。二毛作田として利用されている。

代表断面（試坑番号 23）

位 置 西伯郡伯仙町石州府

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~15cm 黄褐灰色 (10YR 4/1), 腐植を含む, 細礫を含む, L, ち
密度15, 粘着性弱, 可塑性弱, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (Bg₁) 15~18cm 黄褐灰色 (10YR 5/1), 半角小礫を含む, SL, 塊状構造,
糸根状斑含む, ち密度23, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第3層 (Bg₂) 18~37cm 黄褐灰色 (10YR 6/1), 半角小礫を含む, SL, 細孔含む,
糸根状斑あり, ち密度23, 層界平坦明瞭。
- 第4層 (Cg) 37cm以下 中円礫に頗る富む砂礫層。

栢山統 (Kay)

この土壌は、土層がきわめて薄く、30cm 以内から砂礫層の出現する灰褐色土壌で

ある。礫層上の土層は灰褐色系土色を呈し、土性は壤質である。本図幅内においては、大山町坊領の阿弥陀川ぞいに分布する。

代表断面（試坑番号 24）

位 置 西伯郡大山町坊領

断面形態

第1層 (Apg) 0~20cm 黄褐灰色 (10YR 4/1), 腐植を含む, 小中円礫あり, SL, ち密度10, 粘着性弱, 可塑性弱, 湿, 層界平坦判然。

第2層 (Bg) 20~28cm 黄褐灰色 (10YR 4/1), SL, 糸根状斑あり, ち密度13, 粘着性弱, 可塑性弱, 湿, 層界平坦判然。

第3層 (Cg) 28cm以下 大中円礫に富む小細円礫層。

1. 2. 5 灰色土壌

これらの土壌は、作土をのぞく全層が灰色系土色（色相 2.5Y~7.5Y, 彩度 3未満 明度 3またはそれ以上、ただし、明度 3・彩度 1~0はのぞく）を呈し、泥炭層・黒泥層・グライ層・腐植質火山灰層・黄褐色土層・灰褐色土層をもたないことを特徴とする。

本図幅内においては、主として法勝寺川、伯太川ぞいの谷底平野に分布し、また日野川上流の谷底平野・佐陀川ぞいおよび砂丘・砂州地帯の一部に分布し、主として二毛作田一部は畑地として利用されている。断面形態の違いにより、次の10の土壌統に区分した。

1. 四倉統
2. 佐賀統
3. 鴨島統
4. 藤代統
5. 宝田統
6. 加茂統
7. 清武統
8. 豊中統
9. 追子野木統

10. 国領統

四倉統 (Ytk)

この土壌は、強粘質で、マンガン結核をもたない灰色土壌である。作土下の主要な色調は灰色で、土性は強粘質、かつ作土直下に塊状または柱状構造が発達している。ただマンガン結核を欠く点において佐賀統と異なる。その分布は、西伯町境付近にかぎられている。

代表断面 (試坑番号 25)

位 置 西伯郡西伯町境

断面形態

- 第1層 (Ap_G) 0~14cm 黄灰色 (7.5Y 5/2), LiC, 膜状斑含む, 下部グライ斑, 小
・細円礫あり, ち密度6, 潤, 層界明瞭。
- 第2層 (Bcg₁) 14~30cm 灰色 (N. 5), SiC, 糸根状斑含む, 弱塊状構造, 細角礫含
む, ち密度18, 湿, 層界漸変
- 第3層 (Bcg₂) 30~45cm 灰色 (N. 6), SiC, 糸根状斑含む, マツシブ, 細角礫含む,
ち密度20, 湿, 層界漸変。
- 第4層 (Cg₁) 45~73cm 黒褐色 (7.5YR 3/2), SCL, 糸根状斑あり, マツシブ, 細
角礫含む, 潤, 層界漸変。
- 第5層 (Cg₂) 73cm以下 灰色 (N. 6), LiC, 管状斑あり, マツシブ, 礫なし, 潤。

佐賀統 (Sag)

この土壌は、強粘質の灰色土壌で構造とマンガン点状斑とをもつ型である。本図幅では、西伯町の絹屋、北方、猪小路付近など山あいの低地に分布する。この地域のマンガン斑は、Bcg₁層の糸根状とBg₂層の斑点状に分れているが、マンガン斑のこのような分離はかなり普遍的である。なお、下層土は鉄の管状斑をもち、やや還元的条件にあることがうかがわれる。

代表断面 (試坑番号 26)

位 置 西伯郡西伯町絹屋

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~14cm 黄灰色 (5Y 5/1), CL, 膜状および曇管状斑富むグライ斑
含む, ち密度11, 層界明瞭。

- 第2層 (AG) 14~18cm 黄灰色 (10Y4.5/1); CL, 膜状および管状含む, 弱塊状構造, ジピリジル反応+, ち密度15, 層界明瞭。
- 第3層 (Bcg₁) 18~26cm 黄灰色 (7.5Y5/1), CL, 黒褐色糸根状斑富む, 黄橙色雲状斑含む, ベンチジン反応++ (糸根状), 中度の柱状構造, 構造面に粘土皮膜認む, ち密度20, 層界判然。
- 第4層 (Bg₂) 26~65cm 黄灰色 (7.5Y5/1), SiC, 黒褐色斑点状, 管状含む, 鉄の管状含む, ベンチジン反応++ (点状・管状), マツシブ, ち密度18→14 (上部→下部), 層界漸変。
- 第5層 (Cg) 65cm以下 黄灰色 (10Y5/1), LiC, 鉄の管状斑あり, 無構造, ジピリジル反応±。

鴨島統 (Km_j)

この土壤は, 粘質の灰色土壤で, 下層土にマンガン結核をもたないが, 作土直下には塊状もしくは柱状構造が発達している。米子市の新山附近と安来市の伯太川流域に小面積ずつ分布している。

代表断面 (試坑番号 27)

位 置 米子市新山中島

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~14cm 黄灰色 (7.5Y5/2), L, 膜状斑あり, ち密度9, 湿, 層界明瞭。
- 第2層 (Bcg₁) 14~30cm 灰色 (N.5), SiCL, 糸根状含む, 塊状構造, 細角礫あり, ち密度19, 湿, 層界漸変。
- 第3層 (Bg₂) 30~56cm 黄褐灰色 (2.5Y4/2), SiCL, 糸根状あり, 管状あり, マツシブ, ち密度15, 湿, 層界漸変。
- 第4層 (Cg) 56cm以下 灰色 (N.6), SiL, 管状斑あり, 湿。

藤代統 (F_{js})

この土壤は, 粘質の灰色土壤で, 作土直下に構造がみられず, またマンガン結核も存在しない。本図幅内においては, 淀江町福頼附近の沖積低地に局部的に分布する。二毛作田として利用されている。

代表断面 (試坑番号 28)

位 置 西伯郡滝江町福頼

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~13cm 黒褐色 (7.5YR 3/2), 腐植を含む, SC, ち密度5, 粘着性強, 可塑性強, 潤, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (Bg₁) 13~40cm 暗灰色 (N.4), SC, 細孔含む, 膜状・糸根状斑あり, グライ斑あり, ち密度20, 粘着性強, 可塑性強, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第3層 (Bg₂) 40cm以下 暗灰色 (N.4), 細角礫あり, SC, 粘着性強, 可塑性強, 湿。

宝田統 (Tkr)

この土壌は、マンガン点状斑をもつ粘質の灰色土壌である。作土下の土層は、ふつう構造がよく発達している。法勝寺川流域(西伯町, 会見町, 米子市にまたがる)にその分布は集中している。比較的乾燥し、排水良好で構造面には粘土皮膜がみられる。

代表断面 (試坑番号 29)

位 置 西伯郡会見町三崎

断面形態

- 第1層 (ApG) 0~16cm 黄灰色 (5Y4/1), L, 膜状斑あり, 下部にグライ斑残留, ち密度8, 層界明瞭。
- 第2層 (Bcg₁) 16~25cm 黄灰色 (5Y 4/1), CL, 糸根状斑含む~富む, 中度柱状構造, ち密度15, 層界判然。
- 第3層 (Bcg₂) 25~36cm 黄褐色 (10YR 4/1), CL, 鉄の糸根状, 雲状斑含む, 黒褐色点状あり, ベンチジン反応+(点状), 中度柱状構造(構造面に粘土皮膜), ち密度21, 層界判然。
- 第4層 (Bg₃) 36~65cm 黄灰色 (5Y 5/1), CL, 鉄の雲状斑頗る富む, 管状斑あり, 黒褐色点状あり, ベンチジン反応+(点状), マツシブ, ち密度15, 層界漸変。
- 第5層 (Cg) 65cm以下 黄灰色 (5Y5/1), SCL, 糸根状・管状斑富む, ベンチジン反応-。

加茂統 (km)

この土壌は、壤質でマンガン結核をもたない灰色土壌である。本図幅内では、溝口町、岸本町から米子市にかけて日野川ぞいの低地に、また伯太町から安来市にかけての伯太川ぞいの低地に分布し、二毛作田として利用されている。

代表断面（試坑番号 30）

位 置 西伯郡岸本町大殿緒方新田

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~17cm 暗黄褐灰色 (2.5Y4/1), 腐植を含む, L, ち密度12, 粘着性弱, 可塑性弱, 湿, 層界平坦判然。
- 第2層 (Bg₁) 17~23cm 灰色ないし黄褐灰色 (2.5Y5/1), 細円礫あり, L, 糸根状斑含む, ち密度21, 粘着性弱, 可塑性弱, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第3層 (Bg₂) 23~28cm 黄褐灰色 (2.5Y6/2), FSL, 糸根状斑含む, ち密度20, 湿, 層界平坦明瞭
- 第4層 (Bg₃) 28cm以下 黄褐灰色 (2.5Y6/2), FSL, 細孔富む, 糸根状斑富む, ち密度19, 湿。

清武統 (Kyt)

この土壌は、壤質で点状マンガン斑をもつ灰色水田土壌である。伯太川、法勝寺川の現河流にそって帯状に分布する。下層土は、砂質な土層に漸移することが多い。

代表断面（試坑番号 31）

位 置 能義郡伯太町東母里古市

断面形態

- 第1層 (Acg) 0~15cm 黄灰色 (5Y4/1), L, 不鮮明糸根状斑あり, ち密度11, 層界明瞭,
- 第2層 (Bcg₁) 15~24cm 黄灰色 (5Y5.5/2), L, 糸根状, 雲状斑富む, ち密度20, 層界明瞭
- 第3層 (Apgb) 24~43cm 黄灰色 (5Y4/1), L, 糸根状斑含む, 細礫あり, ち密度20, 層界明瞭。
- 第4層 (Bcg₁b) 43~50cm 黄灰色 (2.5Y5/2), L, 糸根状斑富む, 雲状斑含む, ベンチジン反応+(糸根状), 弱塊状構造, 細礫あり, ち密

度20, 層界判然

第5層 (Bcg₂b) 50~64cm 黄褐色 (10YR4/1), L, 糸根状・雲状斑含む, 黒色点状斑あり, ベンチジン反応+ (点状), 細礫あり, ち密度24, 層界漸変。

第6層 (Bg_sb) 64cm以下 黄灰色 (2.5Y5/1), FSL, 糸根状斑含む, 管状斑あり, 黒色点状斑あり, ベンチジン反応+ (点状), 細礫あり, ち密度12。

この断面は, 1, 2層が氾濫による新しい堆積物に由来している。3層以下が地表面にあったとき, すでに清武統にあたる断面が発達していたが, いまは埋没されている。

豊中統 (Toy)

この土壌は, 全層が砂質の灰色土壌である。自然肥沃度, 保肥力がきわめて低く, また排水過良の土壌であるが, 一部に地下水位が比較的高く, かつ下層土に弱いピリジル反応を呈する土壌もふくまれる。伯仙町の佐陀川ぞい, 米子市五千石・長砂町, 伯太町の伯太川ぞいの低地に分布し, 二毛作田として利用されている。一方, 弓ヶ浜半島の砂丘・砂州地帯にも彦名町上粟島・下粟島, 上福原新田などに局所的に分布し, 畑地として利用されている。

代表断面 (試坑番号 32)

位 置 西伯郡伯仙町町尾高

断面形態

第1層 (Apg) 0~15cm 灰黒色 (2.5Y3/1) 腐植を含む, SL, ち密度13, 粘着性弱, 可塑性弱, 湿, 層界平坦判然。

第2層 (Bg) 15~30cm 灰色ないし黄褐色 (2.5Y 6/1), L S, 糸根状斑あり, ち密度15, 湿。

第3層 (Cg) 30cm以下 灰色ないし黄褐色 (2.5Y6/1), S, 湿。

追子野木統 (Okk)

この土壌は, 30~60cmの範囲から以下に砂礫層が出現する灰色土壌である。上部は壤質の灰色を呈する土層である。きわめて溶脱がはげしく, 鉄・マンガン等は強く溶脱され, マンガンは砂礫層を汚染して沈積していることが多い。溝口町の日野川流域に出現する。

代表断面（試坑番号 33）

位置 日野郡溝口町宇代

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~12cm 黄灰色 (7.5Y4/1), L, 斑紋なし, 無構造, ち密度11, 層界明瞭。
- 第2層 (Acg) 12~19cm 黄灰色 (7.5Y4.5/1), SL, 不鮮明糸根状斑含む, 弱度塊状構造, ち密度19, 層界明瞭。
- 第3層 (Bcg₁) 19~29cm 黄灰色 (5Y6/2) L, 糸根状斑含む~富む, 柱状構造, ち密度23, 層界漸変。
- 第4層 (Bcg₂) 29~37cm 灰黄色 (5Y6/3), SL, 糸根状斑富む, 雲状斑含む, マツシブ, ち密度20, 層界判然。
- 第5層 (C) 37cm以下 砂礫層

国領統 (Kok)

この土壌は, もとの河床面などに発達した水田土壌で, 砂礫層が 30cm 以内にでてくるきわめて土層の浅い土壌である。砂礫層上は灰色で, 土性も壤質またはそれよりあらいのが普通である。二三酸化物・粘土などの溶脱がきわめて激しく, 礫層が鉄・マンガンで汚染されている。伯太川の下流(安来市), 法勝寺川の上流に現河流にそって細く帯状に分布する。

代表断面（試坑番号 34）

位置 西伯郡西伯町馬場

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~14cm 黄灰色 (5Y4/2), L, 不鮮明膜状斑含む, 無構造, ち密度7, 層界明瞭。
- 第2層 (Bcg₁) 14~23cm 黄灰色 (5Y4/1) L, 糸根状・膜状斑富む, ベンチジン反応-, 弱度柱状構造, ち密度20, 層界判然。
- 第3層 (Bgs₂) 23~40cm 黄灰色 (5Y4/1) SL~LS, 細~大, 円および半角礫層, 砂礫が鉄・マンガンで汚染されているベンチジン反応+。
- 第4層 (Cg) 40cm以下 砂礫層, 細~大, 円および半角礫層, 色は砂礫そのものの色。

I. 2. 6 グライ土壌

これらの土壌は、断面の30～70cm以下からグライ層(色層10Yまたはそれより青く、 α - α' ジピリジル反応即時鮮明な土層)が出現し、泥炭層、黒泥層、腐植質火山灰層をもたないことを特徴とする。本図幅内においては、主として中部以西の比較的狭少な谷底平野および海岸砂州・砂丘地帯に分布する。大部分が半湿田である。断面形態の違いにより、次の7つの土壌統に区分した。

1. 川副統
2. 千年統
3. 浅津統
5. 三隅下統
5. 新山統
6. 上兵庫統
7. 八幡統

川副統 (Kaw)

この土壌は、数10cmより以下がグライ層で、上部は灰色を呈する中間型水田土壌である。上部の灰色を呈する土層は構造が発達し、かつマンガン結核をもち、グライ土壌のなかでも相対的に乾いているタイプに属する。土性は強粘質。米子市成美地区に出現する。

代表断面 (試坑番号 35)

位 置 米子市 (成美) 奈喜良

断面形態

- 第1層 (A_{pg}) 0～14cm 黄灰色 (7.5Y5/2) SiCL, 膜状含む, 糸根状斑あり, 下部グライ斑あり, ち密度9, 層界明瞭。
- 第2層 (B_{cg1}) 14～25cm 黄灰色 (7.5Y 5/2) SiCL, 膜状含む, 糸根状あり, 塊状構造, ち密度20, 層界漸変。
- 第3層 (B_{g2}) 25～53cm 黄灰色 (7.5Y 5/2) LiC, Mn 点状斑含む, マツシブ, ち密度20, 層界明瞭。
- 第4層 (G₁) 53～76cm 淡黄灰色 (10Y 7/2), HC, 糸根状含む・管状あり, マツシブ, ジピリジル反応即時鮮明, 層界漸変。

第5層 (G₂) 76cm以下 暗緑灰色 (10GY 4/1), HC, 斑紋なし, マツシブ, ジピリ
ジル反応即時鮮明。

千年統 (Cht)

この土壌は、数 10cm 以下からグライ層が出現する粘質なグライ土壌である。上部の灰色を呈する土層は構造が発達せず、したがって斑鉄はあってもマンガン斑は存在しないのが特徴である。島根県伯太町および安来市大塚町の、樹枝状に走る狭隘な山あいの低地に分布している。

代表断面 (試坑番号 36)

位 置 安来市大塚

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~15cm 黄灰色 (5Y5/1), CL, 膜状斑含む, マツシブ, ち密度10。
 第2層 (Ag) 15~22cm 灰色 (N. 5), CL, 糸根状斑含む, マツシブ, ち密度16。
 第3層 (Bcg₁) 22~33cm 灰色 (N. 5), CL, 糸根状斑含む, 黄褐雲状斑含む, マツシブ, ち密度18。
 第4層 (Bg₂) 30~50cm 黄灰色 (5Y5/1), CL, 糸根状斑含む, マツシブ。
 第5層 (G) 50cm以下 灰色 (N. 4), CL, 斑紋なし, ピリジル反応即時鮮明。

浅津統 (Aso)

この土壌は、数 10cm より以下がグライ層になる粘質のグライ土壌である。グライ層の上部は灰色土壌で、そこに柱状もしくは塊状構造が発達している。ただし、マンガン結核は存在しない。安来市の伯太川と吉田川にはさまれた部分に広く分布するが、米子図幅では西端に小面積あらわれるにすぎない。

代表断面 (試坑番号 37)

位 置 安来市能義

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~13cm 黄灰色 (5Y4/1), CL, 雲状斑含む, 半角細礫含む, ち密度8, 潤。
 第2層 (Bcg) 13~28cm 灰色 (N. 5), CL, 糸根状斑含む, 柱状構造, 膜状斑あり, 雲状あり, 半角細礫含む, ち密度27, 湿。
 第3層 (Cg) 28~38cm 灰色 (N. 4), SL, 糸根状斑あり, 弱柱状構造, 脈状斑あ

- り、半角細礫あり、ち密度21、湿。
- 第4層 (G₁) 38~59cm 暗黄灰色 (10Y4/1), CL, 糸根状斑あり, マツシブ, 半角細礫あり, ピリジル反応即時鮮明, ち密度16, 湿, 湧水面46cm。
- 第5層 (G₂) 59cm以下 暗黄灰色 (2.5GY4/1), CL, 斑紋なし, マツシブ, 細半角礫あり, ピリジル反応即時鮮明, 潤。

三隅下統 (Mis)

この土壌は、かんがい水による鉄・マンガンの沈積と、断面下部に地下水によるグライ層をもつ、粘質の中間型水田土壌である。グライ土壌のなかでも比較的乾いている型に属する。代表断面にみるように、2、3層における鉄とマンガンの分離沈積、構造面の粘土皮膜の形成など、かんがい水の下方滲透の傾向が明瞭である一方、下層土は斑紋のないグライ層となっている。

代表断面 (試坑番号 38)

位 置 安来市門生

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~15cm 黄灰色 (7.5Y 4/1), L, 糸根状・膜状斑あり~含む, ち密度11, 層界明瞭。
- 第2層 (Bcg₁) 15~22cm 黄灰色 (5Y 5/1), CL, 糸根状斑含む, 雲状斑あり, 中度塊状構造, 構造面に粘土被膜あり, ち密度20, 層界判然。
- 第3層 (Bcg₂) 22~38cm 黄灰色 (5Y 5/1), CL, 黒褐色糸根状・点状斑含む, 雲状斑含む, ベンチジン反応++, 弱度塊状構造, 構造面に粘土皮膜あり, ち密度20, 層界判然。
- 第4層 (Cg) 38~55cm 黄灰色 (5Y 5/1), CL, 雲状斑あり, 弱度塊状構造, 層界漸変。
- 第5層 (G) 55cm以下 黄灰色 (10Y5/1), CL (下層~LiCに漸移), 斑紋なし, ピリジル反応+。

新山統 (Niy)

この土壌は、30~60cm 以内からグライ層の出現する壤質のグライ土壌であり、作土下に構造の発達は見られない。グライ層上の土層は、一般に灰色系土色を呈し斑紋

を含有している。本図幅内においては、日吉津村富吉から淀江町佐陀にかけての砂丘後背湿地、安来市伯太川下流佐久保以北の沖積低地に主として分布し、一毛田あるいは二毛田として利用されている。

代表断面（試坑番号 39）

位 置 西伯郡日吉津村海川

断面形態

第1層 (A_{pg}) 0~14cm 黄褐灰色(10YR 6/2), 腐植をわずかに含む, 細角礫をわずかに含む, L, 糸根状斑あり, ち密度10, 粘着性弱, 可塑性なし, 湿, 層界平坦判然。

第2層 (B_{g1}) 14~29cm 黄灰色 (5Y6/1), SL, 細孔含む, 糸根状斑含む, ち密度21, 粘着性弱, 可塑性なし, 湿, 層界平坦判然。

第3層 (B_{g2}) 29~46cm 灰色 (N. 7), SL, ち密度20, 湿, 層界平坦漸変。

第4層 (G₁) 46~68cm 黄灰色 (10Y 5/1.5), SL, ち密度19, 潤, グライ層, 層界平坦明瞭。

第5層 (G₂) 68cm以下 緑灰色 (5G6/0.5), SL, グライ層, 潤, 湧水面83cm。

上兵庫統 (K_{hy})

この土壌は、壤質のグライ土壌である。通常数10cm以下がグライ層で、上部は灰色土層になっている。灰色土層は、乾燥と湿潤の反復をしめす弱い構造をもっており、管状斑をふくむのが普通である。マンガン斑はあることもあればないこともある。分布はせまく、米子市陰田および会見町高姫に局所的に出現する。

代表断面（試坑番号 40）

位 置 米子市陰田

断面形態

第1層 (A_{pG}) 0~14cm 黄灰色 (5Y 5/2), L, 膜状斑, 糸根状斑含む~富む, 作土下部グライ斑あり, 無構造, ち密度11, 層界明瞭。

第2層 (B_g) 14~23cm 黄灰色 (5Y 5/1), L, 鉄の糸根状斑含む, 黒褐色糸根状・点状斑含む, ベンチジン反応+ (糸根状・点状), 弱塊状構造, ち密度19, 層界判然。

第3層 (C_g) 23~70cm 黄灰色 (7.5Y 4/1), L, やや鮮明管状斑あり, マツシブ,

- ピリジル反応土，ち密度18，層界判然。
- 第4層 (G₁) 70~75cm 黄灰色 (10Y 5.5/1), SCL, 斑紋なし，マツシブ，ピリジル反応即時鮮明，ち密度18，層界明瞭。
- 第5層 (G₂) 75cm以下 黄灰色 (10Y5.5/1), LiC, 斑紋なし，マツシブ，ピリジル反応即時鮮明。

八幡統 (Ywt)

この土壌は，30~60cm以内からグライ層の出現する砂質のグライ土壌である。グライ化の程度は比較的弱く，また砂質のため典型的なグライ色を呈しない場合が多い。グライ層上の土層は灰色ないし灰褐色系土色を呈し，一般に糸根状，雲状斑がみられる。湧水面は30~60cmで，年間の変動はあまり大きくない。本図幅内では，主とし安来市大塚町附近の伯太川左岸ぞいの低地，米子市車尾南方の日野川と米川にかこまれる低地および弓ヶ浜半島の中海沿岸低地に分布し，二毛作田として，また一部は畑地として利用されている。

代表断面 (試坑番号 41)

位 置 米子市彦名町後藤

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~35cm 黄褐灰色 (10YR5/1.5), S, 糸根状斑および雲状斑含む，湿，層界平坦判然。
- 第2層 (Bg) 35~45cm 灰色ないし黄褐灰色 (2.5Y 5/1), Co. S, 斑紋なし，湿，層界平坦漸変。
- 第3層 (G) 45cm以下 黄灰色 (5Y4/1), Co. S, ピリジル反応中，グライ層，潤，湧水面55cm。

II. 2. 7 強グライ土壌

これらの土壌は，ほぼ作土直下からグライ層(色相10Yまたはそれより青く， α - α' ジピリジル反応即時鮮明な土層)が出現し，泥炭層・黒泥層・腐植質火山灰層をもたないことを特徴とする。ただし，本図幅内においては，砂丘砂州地帯の砂質土壌でピリジル反応は即時鮮明で灰色を呈する土壌，また，中海干拓地の一部には青色を呈するがピリジル反応即時鮮明でない土壌などがあるが，その分布する地形的関係・地下水

位の年間の変動などを考慮にいれ暫定的に強グライ土壌群にいった。本土壌群は、中海沿岸の低地、海岸砂州の後背湿地および丘陵地間の狭少な谷底平野、台地、丘陵地ぞいの低地などにみられる。図幅内では、中部以西に特に分布が大である。土性・斑紋の有無、構造の有無などによって、次の9つの土壌統に細分した。

1. 富曾亀統
2. 田川統
3. 白山統
4. 西山統
5. 東浦統
6. 茶屋統
7. 滝尾統
8. 琴浜統
9. 片桐統

富曾亀統 (Fsk)

この土壌は、強粘質の強グライ土壌である。全層が強い還元的条件にあり、斑紋は作土には存在するがそれ以下の土層にはない。また、もちろん構造もなく、全層の湿りは潤であるのが普通である。下層はしばしば暗色をおび、有機質ないし黒泥質へと移行することがあり、古くはより湿地質条件にあったことがわかる（代表断面もそうである）。安来市清水、安来市門生、西伯町鍋倉などに出現するが、分布はかならずしも広くない。

代表断面（試坑番号 42）

位 置 安来市清水

断面形態

- 第1層 (AGp) 0~14cm 暗黄灰色 (10Y 4/1), CL, 膜状斑・管状斑含む, マツシブ, ピリジル反応即時鮮明。
- 第2層 (G₁) 14~60cm 暗黄灰色 (10Y 4/1), LiC, 斑紋なし, マツシブ, ピリジル反応即時鮮明。
- 第3層 (G₂) 60~80cm 暗黄灰色 (10Y4/1), HC, 斑斑なし, マツシブ, ピリジル反応即時鮮明。

第4層 (G₃) 80cm以下 黄黒色 (5Y 3/1), HC, 斑紋なし, マツシブ, ピリジル反応即時鮮明, (有機質層)。

田川統 (Tgw)

この土壌は、作土直下から全層グライ層となる強粘質の強グライ土壌である。斑鉄は存在するが、ただし構造の発達は見られない。西伯町原, 会見町浅井, 米子市五千石地区などに小面積ずつ分布する。

代表断面 (試坑番号 43)

位置 西伯郡西伯町原

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~14cm 黄褐灰色 (10YR 5/2) SiC, 膜状斑あり, マツシブ, ち密度8, 湿, 層界明瞭。
- 第2層 (G₁) 14~25cm 灰色 (N. 5), LiC, 糸根状斑含む, マツシブ, ピリジル反応即時鮮明, ち密度13, 湿, 層界判然。
- 第3層 (G₂) 25~59cm 灰色 (N. 4), HC, 糸根状斑含む・管状斑あり・雲状斑あり, マツシブ, ピリジル反応即時鮮明, ち密度13, 潤, 層界漸変。
- 第4層 (G₃) 59cm以下 灰色 (N. 6), HC, 管状斑上部にあり, マツシブ, ピリジル反応即時鮮明, 潤, 地下水位 75cm に出現。

白山統 (Shi)

この土壌は、本図幅では成因的に2種のものがふくまれる。その1つは強グライ土壌の強粘質還元型の土壌に暗渠排水が施行され、その効果があらわれて斑紋・構造が生じつつあるもので、生産力はかなり高く排水の効果がみとめられている。その2は干拓地土壌の乾燥過程にあるもので、安来市の中海に面するところに分布する。干拓地土壌は、グライ色を呈してもジピリジル反応をしめさず、成因的にも前者と区別したほうがよいとおもわれるが、今回は便宜的に一緒に扱った。代表断面は、前者に属する。

代表断面 (試坑番号 44)

位置 能義郡伯太町安田中

断面形態

- 第1層 (AGp) 0~13cm 黄灰色 (7.5Y5/1), LiC, 膜状および管状斑頗る富む, ピ

- 第2層 (G₁) 13~25cm 暗黄灰色 (2.5GY 3.5/1), LiC, 膜状斑・管状斑富む, 中
度塊状構造, ピリジル反応即時鮮明, ち密度18, 湿, 層界
判然。
- 第3層 (G₂) 25~40cm 暗黄灰色 (2.5GY 4/1), LiC, 脈状斑・膜状斑富む, 弱度
柱状構造, ピリジル反応即時鮮明, ち密度18, 湿, 層界漸
変。
- 第4層 (G₃) 40~60cm 暗黄灰色 (10Y 4/1), LiC, 脈状・膜状斑含む, 極弱度柱
状構造, ピリジル反応即時鮮明, ち密度12, 潤, 層界漸変
- 第5層 (G₄) 60cm以下 黄黒色 (5Y 3/1), LiC, 斑紋, 構造なし, ピリジル反応即
時鮮明, 有機質, 潤。

注 昭和39年末に暗渠を施行した。そのため深くまで柱状構造が発達し、構造面に膜状斑を生じかつ作土 (AGp) の下部が若干ち密化してきている。

西山統 (Nsh)

この土壌は、粘質な強グライ土壌で、斑鉄をもたない還元型の水田土壌である。伯太川流域の狭隘な山あいの低地には粘質～強粘質の強グライ土壌が分布するが、これもその1つである。以下の断面では、下層が砂質に漸移するが、これはかならずしも代表的特徴ではない。

断面形態 (試坑番号 45)

位 置 能義郡伯太町安田宮内

断面形態

- 第1層 (ApG) 0~15cm 黄灰色 (5Y 5/2), CL, 膜状斑・糸根状斑富む, グライ斑
富む, マツシブ, ち密度8, 層界明瞭。
- 第2層 (G₁) 15~20cm 暗黄灰色 (10Y 3/1.5), CL, 膜状斑あり, マツシブ, ピリ
ジル反応+, ち密度12, 層界明瞭。
- 第3層 (G₂) 20~33cm 黄褐灰色 (10YR 3/1), CL, 斑紋なし, マツシブ, ピリジ
ル反応++, 細~大礫含む, ち密度18, 層界判然。
- 第4層 (G₃) 33~62cm 黄灰~緑灰色 (2.5~7.5GY 5/1), SCL, 斑紋なし, マツ
シブ, ピリジル反応++, ち密度21→16 (上部→下部)。

層界漸変。

第5層 (G₄) 62cm以下 黄灰～緑灰色 (2.5～7.5GY 5/1), SL, 斑紋なし, マツシ
プ, ピリジル反応++。

東浦統 (Hgs)

この土壤は、作土もしくは作土直下からグライ層となる粘質な強グライ土壤であって、構造の発達はみられない。ただし、斑鉄は存在する。法勝寺川が日野川に合流する附近、すなわち米子市尚徳地区、同兼久などにかかなり広く分布する。

代表断面 (試坑番号 46)

位 置 米子市青木

断面形態

- 第1層 (AGp) 0～15cm 暗黄灰色 (10Y4/1), CL, 膜状斑含む・管状斑あり, ピリ
ジル反応即時鮮明, 層界明瞭。
- 第2層 (G₂) 15～19cm 暗黄灰色 (2.5GY2.5/1), CL, 膜状斑・管状斑あり, ピリ
ジル反応即時鮮明, 層界明瞭
- 第3層 (G₃) 19～34cm 客土した山土 (火山起源のマサ) で全体として橙黄色, L
S, ピリジル反応即時鮮明, 層界明瞭。
- 第4層 (G₄) 34cm以下 暗黄灰色 (2.5GY 2.5/1), CL, 斑紋なし, ピリジル反応
即時鮮明。

茶屋統 (Chy)

この土壤は、粘質な強グライ土壤で、斑鉄および構造をもつタイプである。安来市島田町を中心とする海岸部に分布し、地域的特性として凝灰岩質の風化礫を多くふくんでいる。湧水面は高い。

代表断面 (試坑番号 47)

位 置 安来市島田町須崎

断面形態

- 第1層 (ApG) 0～15cm 黄灰色 (7.5Y4/1), CL, 膜状斑・管状斑含む, グライ斑
含む, ち密度5, 潤, 層界明瞭
- 第2層 (G₁) 15～20cm 暗黄灰色 (10Y 3/1), CL, 膜状斑・糸根状斑あり, ピリ
ジル反応+, ち密度14, 湿, 層界明瞭

- 第3層 (G₂) 20~47cm 暗黄灰色 (10Y4/1), CL, やや鮮明な脈状斑含む~富む・膜状斑あり, 弱度柱状構造, ピリジル反応+, 凝灰岩質腐朽細礫富む, ち密度15, 湿, 層界漸変。
- 第4層 (G₃) 47cm以下 凝灰岩質腐朽細礫の色 (白, 緑, ピンク, 橙などの混色) を呈するSCL, 斑紋・構造なし, ピリジル反応+, ち密度13, 潤。

注 湧水面47cm, 湧水はピリジル反応+

滝尾統 (Tko)

この土壌は, 全層あるいは作土直下からグライ層の出現する強グライ土壌で, 土性は壤質である。作土および作土直下に糸根状斑膜状斑をふくみ, グライ層中にも管状斑がみられる。本図幅内においては, 日吉津村西大坪, 米子市美濃, 伯仙町下郷などに分布し, 一毛田として利用されている。

断面形態 (試坑番号 48)

位置 西伯郡日吉津村西大坪

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~12cm 黄灰色 (5Y4/2), 腐植を含む, L, 糸根状斑・膜状斑含む, 次層との境界部に糸根状斑膜状斑頗る富む, ち密度9, 粘着性弱, 可塑性中, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (Bg) 12~18cm 黄灰色 (5Y4.5/2), L, 糸根状斑富む, ち密度22, 粘着性弱, 可塑性中, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第3層 (G₁) 18~50cm 暗黄灰色 (10Y4/0.5), 細円礫を含む, SL, 管状斑含む, グライ層, ち密度21, 湿, 層界平坦判然。
- 第4層 (G₂) 50~65cm 暗黄灰色 (10Y4/0.5), SL, グライ層, ち密度14, 湿, 層界平坦漸変。
- 第5層 (G₃) 65cm以下 暗黄灰色 (10Y4/0.5), SL, グライ層, ち密度9, 潤, 湧水面85cm。

琴浜統 (Kot)

この土壌は, 全層あるいは作土直下よりグライ層となる, 砂質で斑紋をもたない還元型の強グライ土壌である。本図幅内においては, 主として弓ヶ浜半島のほぼ中央部

の砂丘間の低地，中海沿岸の低地，米子市古豊千^{こほうち}附近の日野川右岸の低地，ならびに安来市和田から黒井田にかけての海岸低地に分布し，一毛作田として利用されている。

代表断面（試坑番号 49）

位 置 米子市米原

断面形態

第1層 (ApG) 0~18cm 黒褐色 (10YR 3/1.5)，腐植を含む，LS，膜状斑あり，グライ層，湿，層界平坦判然。

第2層 (G) 18cm以下 黄灰色 (5Y5/1)，S，斑紋なし，グライ層，潤。

片桐統 (Kat)

この土壌は，全層あるいは作土直下からグライ層の出現する強グライ土壌で，土性は砂質，グライ層中に管状斑をもつ斑鉄型である。本図幅内においては，主として米子市車尾附近に，斑鉄のでない砂質強グライ土壌である琴浜統に隣接して分布する。一毛作田として利用されている。

代表断面（試坑番号 50）

位 置 米子市車尾

断面形態

第1層 (Apg) 0~17cm 黄褐灰色 (10YR 4/2)，腐植を含む，SL，斑紋なし，湿，層界平坦明瞭。

第2層 (G₁) 17~45cm 黄灰色 (7.5Y 4/1)，SL，管状斑を含む，グライ層，湿，層界平坦明瞭。

第3層 (G₂) 45~75cm 黄灰色 (7.5Y5/1)，S，管状斑を含む，グライ層，湿，層界平坦判然。

第4層 (G₃) 75cm以下 灰色 (N.5)，S，斑紋なし，グライ層，潤。

1. 2. 8 黒泥土壌

これらの土壌は，断面ちゆうに黒泥層（泥炭をふくむ明度4未満の無彩色，腐植含量5%以上で燐酸吸収係数1500以下）をもつ土壌群である。本図幅内においては，淀江町壺瓶山東方低地，米子市奥陰田，奥谷，会見町天万附近などの丘陵性山地ぞいの

低地にみられるが、その分布面積は狭少である。断面形態の違いにより、次の2つの土壌統に区分した。

1. 田貝統

2. 泉崎統

田貝統 (Tag)

この土壌は、強粘質の黒泥土壤である。分布はあまり広くなく、会見町に局所的に出現するのみである。作土直下から重粘な黒泥層が出現し、下層土は泥炭片をふくむことが多い。全層湿りは潤で、ペリジル反応は即時鮮明である。

代表断面 (試坑番号 51)

位 置 西伯郡会見町天万

断面形態

- 第1層 (ApG) 0~15cm 黄灰色 (5Y 4/1), CL, 雲管状斑・糸根状斑含む, グライ斑含む, ち密度6, 潤。
- 第2層 (M₁) 15~40cm 黒褐色 (10YR 2.5/1), SiC, 斑紋なし, ペリジル反応+3, ち密度11, 潤。
- 第3層 (M₂) 40~71cm 黒褐色 (10YR 3/1), LiC, 斑紋なし, ペリジル反応+3, 泥炭片を含む, ち密度10, 潤。
- 第4層 (G) 71cm以下 灰白色の砂そのものの色をしめす, Co. S, 斑紋なし, ペリジル反応+, 潤。

泉崎統 (Izm)

この土壌は、50cm 以内から黒泥層が出現する強粘質の黒泥土壤である。作土の土性も一般に強粘質であるが、粘質の場合もある。

本図幅内においては、米子市成実地区の奥谷から橋本にかけての低地、陰田・大谷部落の低地および淀江町西原の福井から福岡にかけての低地に分布する。地下水位は全般に低い、下層が強粘質なため排水が悪く、裏作は高畦のことが多い。生産力は比較的高い。

代表断面 (試坑番号 52)

位 置 米子成実深水入

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~13cm 黄灰色 (5Y 5/2), 腐植を含む, SiCL, 膜状斑含む, ち密度10, 粘着性強, 可塑性強, 湿, 層界平坦明瞭。
- 号2層 (Bg) 13~39cm 黄灰色 (5Y5/2), 腐植を含む, LiC, 細孔含む, 糸根状および管状斑あり, 糸状斑含む, ち密度17, 粘着性極強, 可塑性極強, 湿, 層界平坦漸変。
- 第3層 (M₁) 39~75cm 暗灰色 (N. 4), 腐植に富む, 黒泥層, LiC, 細孔あり, 管状斑含む, ち密度15, 粘着性極強, 可塑性極強, 湿, 層界平坦漸変。
- 第4層 (M₂) 75cm以下 暗灰色 (N. 4), 泥炭をわずかに含む, 黒泥層, SiC, 細角礫をわずかに含む, 粘着性極強, 可塑性強。

I. 2. 9. 泥炭土壤

これらの土壤は、断面ちゆうに泥炭層（肉眼によって植物繊維がみとめられる程度に腐朽した植物残渣すなわち泥炭が50%以上を占め、炭素で6%、腐植で10%以上を含む土層）をもつことを特徴とする。本群に属する土壤統は、淀江統のみである。

淀江統 (Yod)

この土壤は、50cm以下から泥炭層が出現する泥炭土壤で、作土または表層20cmと泥炭層とのあいだは黒泥層からなっている。作土下の土性は強粘質であり、作土は一般に粘質である。

本図幅内においては、淀江町西原福井、すなわち壺瓶山の北東山麓低湿地に局部的に分布している。地下水位は比較的低く、二毛田として利用されている。

代表断面 (試坑番号 53)

位 置 西伯郡淀江町大山花表

断面形態

- 第1層 (Apg) 0~14cm 黒色 (7.5YR2/2), 腐植に富む, 細礫をわずかに含む, CL, 細孔含む, 糸根状斑含む, ち密度11, 粘着性中, 可塑性中, 湿, 層界平坦明瞭。
- 第2層 (M₁) 14~33cm 黒色 (N. 2), 腐植に頗る富む, 黒泥層, SiC, 膜状および管状斑あり, ち密度24, 粘着性中, 可塑性中, 湿, 層界平

坦判然。

第3層 (M₂) 33~53cm 黒色 (5YR 2/2), 泥炭に富む, LiC, 斑紋なし, ち密度
17, 粘着性中, 可塑性中, 湿, 層界平坦明瞭。

第4層 (P) 53cm以下 赤褐色 (2.5Y 4/6), 泥炭層。

II. 土壤分類と土地利用

II. 1. 山地・火山性台地地域の土地利用

この地域は、全面積の約60%が300m以下の丘陵性山地と750m以下の山地および火山性台地によって占められている。

図幅西半の丘陵性山地では、赤色土および黄赤色土が広く分布し、褐色森林土の占める割合は少ない。なかでも適潤性褐色森林土(2統)の分布は一層せまく、凝灰岩を母材とする法勝寺2統以外ではまとまった面積を求めることは困難である。

一般に、林業としての土地利用度は低く、第二次世界大戦直後、過度に伐採された林地の多くは放置されて広葉樹の粗悪林となっている。近年、農山村の構造改善事業の推進によって土地利用についても類型化されつつあるが、この地方も、農耕、果樹山林などに一部では方向づけがはじめられ、造林の実行されたものもある。

造林樹種を、スギ、ヒノキ、アカマツの3種にかぎってかんがえてみると、まず、スギでは植栽地が非常に限定される。図幅南部の会見2統、法勝寺2統が、スギの植栽にもっとも適しており、その他小規模に分布する2統のうちでも、谷底に出現するものについては、たとえそれが小面積でも、ヒノキを避けてスギを植栽したほうがよい。

ヒノキは、横山2統をのぞく他のほとんどの2統に植栽可能で、スギにくらべて適地が広い。

アカマツは、花崗岩露岩地(会見1統のa)をのぞく、ほとんど全域が対象地とかんがえられる。凝灰岩母材の乾性土壤(法勝寺1統)は、尾根筋の土層が浅いものでは、アカマツの天然更新にまつ以外にないようにおもわれるが、尾根筋をのぞいてはマツ類の造林地として充分に利用できる場所である。横山2統(黄赤色土)は、アカマツ以外の造林は不適當である。

一般に、この図幅の地域では斜面下部に高旱のササ類が非常に多いので、植栽あるいはそのごの手入れは充分に行なう必要がある。生育の早いメダケ、ネザサ類が密

生する場所では、アカマツにかぎらず成林は困難である。ササ枯殺剤による先行地拵えなどもかんがえてみる必要がある。

また、横山1・2統(赤色土・黄赤色土)は果樹園として利用されているものが多い。この土壌は、石礫は少ないが、堆積が緻密で地味はやせている。特に横山1統(赤色土)は粘質で、通気、透水が悪いので、果樹の育成にあつては、十分に土壌の改良を行なうよう心がけるべきである。特に、緩傾斜地の場合、排水には注意を要する。植穴を大きくすることはむろんのこと、植穴内の過剰水を導くため、植穴を傾斜方向に連結し、斜面下方に排水するのも一方法とかんがえられる。

このように理化学性の劣る土壌では、排水に十分に注意するとともに、客土や有機質肥料による土壌の改良をはからなければならない。また、この地域では、産業構造の変化にともない人口の域外流出が目立ち、特に農山村の労働力は総論第1表にみるように減少している。そのため、経済情勢の変化とあいまって、古くから利用されてきた山間水田の一部では、すでに放置されたところもある。これらは、本来、スギなどの最適地を開拓したものであるが、現状のままではスギの植栽は不可能である。この地域内では、各所の谷底過湿地にヒバの植栽が少本数ずつみられ、10~15年生以降の成長は比較的よい。多少、労力を要するが、流入水を排除すれば、水田跡地へのヒバの植栽もかんがえられる。

なお、この地域には現在では崩壊地はあまりないが、地表の状況からみて、その発生の可能性は十分に予想される。たとえそれが小規模であっても、人里付近では、大災害となるおそれがあるので、林地の開発にあたって注意を要する。一般に地すべり性の崩壊は、斜面の変曲点から起ることが多いといわれているが、各土壌統の接点付近は不安定な場所にあたるので、その取扱いは慎重に行なうべきである。

図幅東半の山地・火山性台地域は、造林樹種としてアカマツが大部分の土壌に適している。

鍋山1統は、アカマツの生育がとくによく、新植地のものも非常によい。壺瓶山1統は鍋山1統にくらべその成績が劣るが、現状ではアカマツを主体にかんがえるほかはない。鍋山2統・壺瓶山2統には、スギの造林が可能で、特に鍋山2統がよいとかんがえられる。

この地域は、火山灰の緩斜面(火山性台地)が非常に広く、現在でも相当に広面積

が開発され、農耕地、果樹園として利用されている。しかし現在では、その生産物の販路がかぎられているので、農用地として利用する可能性の充分ある土地も、なお林地としてかなり広く残されている。

農耕地は主として鍋山1統、果樹園は壺瓶山1統に多い。前述したように、壺瓶山2統は林地として利用する場合には、土壌の性質が劣り、こんごに問題が残されるところである。果樹（特に二十世紀梨）の場合、壺瓶山2統のものは、鍋山1統のものより品質が優れているようであるが、これは十分な栽培管理がなされてはじめて実現することであろう。壺瓶山2統の土壌そのものは、生産性の低い土壌であるから、肥培管理（特に磷酸欠乏に注意が必要）、土壌改良に留意しなければならない。

また、この緩斜面に放牧場があり、こんご大山国立公園の観光開発にともなって拡張されることがかんがえられる。この場合、火山灰は浸食にたいする抵抗性が非常に低いので、家畜による表土の攪乱（流失しやすい状態になる）、地表植生の破かいなど荒廢化には十分に注意すべきである。放牧地にかぎらず、農耕地の場合にも排水路の設置がのぞましい。

なお、安来市島田町内には、竹林経営で収益をあげているところがあるが、図幅内には竹林の適地が多い（横山1・2統、壺瓶山1・2統）。しかしながら、積雪の問題があり、竹材の生産を目的とする経営はむずかしいとおもわれる。丘陵性山地の地域にマダケの竹林がみられたが、雪折れによる被害が相当ひどく、むしろタケノコ生産をかんがえるほうが有利とおもわれる。

II. 2. 低地地域の土地利用

低地地域（一部、台地を含む）の土壌は、既述のように黒色土壌、赤色土壌、黄褐色土壌、灰褐色土壌、灰色土壌、グライ土壌、強グライ土壌、黒泥土壌、泥炭土壌の9つの土壌群に大別され、53の土壌統に細分されるが、これらのなかで分布面積が大きく重要な位置を占めるものは、黒色土壌、灰褐色土壌、灰色土壌、グライ土壌、強グライ土壌である。黒色土壌、灰褐色土壌の一部および黄褐色土壌は、畑地として利用されているが、他はすべて水田として利用されている。

黒色土壌は、大山山麓斜面からこれにつづく台地、台地周縁あるいは台地間の狭少な低地に広く分布している。台地上の黒色土壌は、傾斜がゆるやかでかつ水に恵まれ

たところでは水田として利用されているが、多くは畑として利用され、主としてさと芋、早植甘藷、かんらん、西瓜などが栽培されている。黒色土壌は、軽鬆であり、また強酸性で塩基飽和度が低く、燐酸の固定力がきわめて大きいといった特殊な化学性をもっているため、この点に留意した施肥、管理を行なうことが必要である。

日野川下流右岸および阿弥陀川流域には、大山の安山岩、火山灰の影響をうけた灰褐色土壌が広く分布し二毛作田として利用されている。この土壌は、壤質で排水良好、かつ保肥力も比較的高く、水稲生産力は図幅内では高い部類に属する。特に、阿弥陀川扇状地では、平均収量480kgとかなり高い値をしめしている。しかしながら、同じ灰褐色土壌でも、現河道ぞいに分布する粗粒質でかつ浅い位置から砂礫層の出現する土壌では、各種成分の溶脱流亡が顕著で種々の病害が発生しやすく、また干ばつにも見舞われやすいので、耕土培養資材の投入、堆肥の増施、総合塩類の施用などが必要である。

法勝寺川、伯太川の流域および日野川の岸本町から溝口町にかけての流域の谷底平野には、主として粘質ないし壤質の灰色土壌が分布している。これらの土壌は、排水良好であり、生産力は比較的高い。しかし、現河道ぞいには、前述の灰褐色土壌の場合と同様、全層粗粒質または下層に礫層をもつ秋落ちの顕著な土壌もかなりみられる。

海岸の砂丘砂州地帯に広く分布する砂質の灰褐色土壌は、畑地として利用され、麦・甘藷・ねぎ・煙草その他多種類にわたるそ菜が栽培されている。この土壌は、自然肥沃度が低く養分の吸収保持力もきわめて弱い。したがって、雨水による肥料成分の溶脱がいちじるしいので肥料を分施する必要があり、また苦土・マンガン・鉄・硼素などの成分の補給も常に考慮にいれた施肥管理を行なわねばならない。また干ばつの害をうけやすいため、施肥設計・作付け体系もかなりの制約をうけている。したがって、この地帯の畑作を安定化し高度化するには、灌排水施設の整備が絶対条件である。

一方、砂丘砂州の後背湿地には砂質の強グライおよびグライ土壌が分布し、また図幅西半部すなわち法勝寺川・伯太川流域の狭少な谷底平野・海岸平野、干拓地には、壤質から強粘質にいたるグライ・強グライ土壌が広くみられる。これらの湿田ないし半湿田土壌では、地下水位が高く停滞するため、水稲生育に種々の障害があらわれる。特に弓ヶ浜の砂質強グライ土壌地帯では、根腐れが甚しく、またゴマ葉枯病発生の一多い水田が多い。この地帯の水稲収量は、328kgと図幅中もっとも低い値をしめして

いる。これらの湿田・半湿田土壌では、夏季の急激な還元を抑える意味で未熟堆肥、緑肥等の施用をさけ、また窒素肥料は倒伏を予防するため控え目とし、さらに硫酸根肥料の多肥をさけるべきである。しかしながら、これらの湿田・半湿田土壌の生産性を向上させるには、まず排水を行なって本質的な改良を行なうことが必須条件である。これは山地・丘陵地ぞいの低湿地に局所的に分布する黒泥土壌、泥炭土壌、地下水位の高い黒色土壌の場合にも共通することである。

以上、本地域に分布する主要な土壌につき、各土壌の特性の面から述べてきたが、農業の生産性の向上、近代化をはかるためには、さらに区画整理・大規模な灌排水施設の完備、農道の整備などの基本的な土地条件の改良が必要とかがえられる。

Ⅲ. 資 料

- 1) 鳥取県林業試験場 (1958) : 昭和33年度適地適木調査報告書
- 2) 鳥取県林業試験場 (1960) : 昭和35年度適地適木調査報告書
- 3) 鳥取県林業試験場 (1963) : 昭和38年度適地適木調査報告書
- 4) 鳥取県林業試験場 (1964) : 昭和39年度適地適木調査報告書
- 5) 鳥取県林業試験場 (1965) : 昭和40年度適地適木調査報告書
- 6) 鳥取県林業試験場 (1966) : 昭和41年度適地適木調査報告書
- 7) 島根県土本部 (1966) : 島根県における2,3の特殊土じようについて
- 8) 鳥取県 (1963) : 県営箕蚊屋地区土地改良事業計画
- 9) 通産省地質調査所 (1962) : 5万分の1地質図および図幅説明書(岡山第18号)
- 10) 鳥取県林業試験場 (1965) : 鳥取県林業試験場年報
- 11) 島根県林業試験場 (1965) : 島根県林業試験場年報
- 12) 鳥取県農業試験場(1957, 1959, 1961, 1963) : 施肥改善事業の調査研究成績書
- 13) 鳥取県農業試験場 (1964, 1966) : 地力保全基本調査成績書
- 14) 島根県農業試験場 (1957) : 施肥改善事業の調査研究成績書
- 15) 島根県農業試験場 (1963) : 地力保全基本調査成績書
- 16) 米子市農政農林課 (1962) : 農耕地土じよう調査事業成績書
- 17) 農林省農業技術研究所 (1964) : 水田土壌統設定 (第1次案)
- 18) 農林省農業技術研究所 (1966) : 水田土壌統設定 (第1次案) 補遺 3

Soil Survey "YONAGO"

(Summary)

1:50,000 "Yonago" sheet lies between E 133°15' to 133°30' longitude and N 35°20' to 35°30' latitude. About one half of this sheet is occupied by mountainous and upland area, and another half is occupied by lowland area.

The soil survey of this area was made on the Soil Survey Standard Regulation, Fundamental Land Classification, National Land Survey Law. Mountainous and upland area were surveyed in summer of 1966 by the members of Government Forest Experiment Station, Tokyo and Kwansai Branch of Government Forest Experiment Station, Kyoto, and lowland area by the members of National Institute of Agricultural Sciences, Tokyo, in autumn of 1966.

The soils of this area were classified into soil series based on the profile characteristics, parent materials, and modes of sedimentation.

I. Soils mostly found on mountainous and upland region

The soils of this area are classified into 3 groups and are subdivided into 7 subgroups based on the characteristics of soil profile and parent rocks.

1. Brown forest soils

The brown forest soils of this area are classified into 5 subgroups. Each groups are classified into (1) rather residual type on the ridges and upper parts of the convex slopes and (2) moderately moist and slightly wet colluvial type on the concave slopes, foot slopes and valley bottoms.

(1) Aimi subgroups (Originated from granite)

1) Aimi 1 series (Aim 1). Rather dried brown forest soils (B_A ~ B_B).

2) Aimi 2 series (Aim 2). Moderately moist brown forest soils (B_D).

(2) Kiyomizu subgroups (Originated from andesite).

1) Kiyomizu 1 series (Kim 1). Rather dried brown forest soils (B_A ~

- BC).
- 2) Kiyomizu 2 series (Kim 2). Moderately moist and slightly wet brown forest soils (B_D ~ B_E).
- (3) Hosshoji subgroups (Originated from tuff and tuff breccia).
- 1) Hosshoji 1 series (Hoj 1). Rather dried brown forest soils (B_A ~ B_C).
 - 2) Hosshoji 2 series (Hoj 2). Moderately moist and slightly wet brown forest soils (B_D ~ B_E).
- (4) Mori subgroups (Originated from rhyolite).
- 1) Mori 1 series (Mor 1). Rather dried brown forest soils (B_A ~ B_C).
 - 2) Mori 2 series (Mor 2). Moderately moist brown forest soils (B_D).
- (5) Tsubokameyama subgroups (Originated from volcanic ashes).
- 1) Tsubokameyama 1 series (Tuy 1). Residual type brown forest soils (non-gravels).
 - 2) Tsubokameyama 2 series (Tuy 2). Colluvial type brown forest soils (contain gravels).

In these soils (Hoj 2) and (Kim 2) has good property for trees, then natural pine or broad leaved forests and sometimes Sugi (Crip. Jap.) or Hinoki (Cham. obt.) forests are on them, forest stand is good.

(Tuy 1) soils distribute on the upper part of eroded convex slope at the volcano and the skirts. There are natural pine, broad leaved forests, orchards and upland crop fields.

2. Black soils

Nabeyama series (Nay 1.2.) : Black Ando soils, deep black colored surface horizon very rich in humus. They are originated from volcanic ashes by the Daisen volcano. These soils are classified into 2 series 1) Nabeyama 1 series (Nay 1), residual type, distribute on the volcano slopes and the mountain slope of Mt. Daisen and 2) Nabeyama 2 series (Nay 2), colluvial type, distribute on the valley bottoms, concave slopes and the lower part of the mountain slopes.

(Nay 1) soils are used for natural and planted pine forests, stand is very good. Some are used also as upland crop fields and orchards. (Nay 2) soils contain the gravels and are sandy loam textured. There

are natural and planted pine and Sugi forests, forest growth is good.

3. Red soils and Reddish-yellow soils

These soils are classified into Red soils (Yokoyama 1 series. Yoy 1), distribute on the gentle slope of the hill tops, convex slope of the hill side, not exceeding 120m from the sea level, and Reddish-yellow soils (Yokoyama 2 series. Yoy 2), distribute on the lower part of all over the hilly gentle slopes, not exceeding 170m from the sea level. The parent materials of both soils are various.

These soils are used for natural pine or broad leaved forests, orchards of pear, and bamboo forests.

II. Soils mostly found on lowland region

The soils of this area are classified to the following 9 groups; Black soils, Red soils, Yellowish brown soils, Grayish brown soils, Gray soils, Gley soils, Strong gley soils, Muck soils, and Peat soils. These groups are subdivided into 53 soil series.

1. Black soils

Black soils are originated from the volcanic ash and or its secondary deposits derived from Mt. Daisen. The soils are characterized by high organic matter content, high cation exchange capacity, high power of phosphorus absorption, and others which are inherited from volcanic ash. They are mainly distributed in mountain slope, terrace and colluvial areas in the eastern part of this sheet. The soils on terraces are used as upland field and partly as paddy field, and the soils on lowlands are all used as paddy field. Black soils are subdivided into the following 13 soil series.

Bessho series, very fine textured; Makihara series, fine textured; Aino series, medium textured with gravel; Kiyohara series, with thick humus horizon; Kishimoto series, with thick humus horizon and gravel; Tsumaki series, with thin humus horizon and gravel layer; these are distributed on gently sloping mountain foot to terrace and used as upland field. Shinonaga series, very fine textured, mottled; Tamagawa series, fine textured, mottled; Kabata series,

medium textured, mottled : these are distributed on gently sloping terrace and used as paddy field. Fukaizawa series, with mottled deep humus horizon ; Iwayadani series, with gleyed deep humus horizon ; Noichi series, fine textured and with humus horizon in lower part of profile ; Takasaki series, medium textured and with humus horizon in lower part of profile.

2. Red soils

Red soils are the groups having the transitional characteristics to the upland soils. Principal morphological characteristic is the reddish brown colour of subhorizons with a few rusty mottles. Distributed on the slightly sloped terrace of Takaiya, Yodoe-cho, and used as paddy field. Fine textured Takaiya series is recognized.

3. Yellowish brown soils

These soils are characterized by the yellowish brown colour of subhorizons. Coarse textured Kusaka series was recognized in this area. Mainly distributed on the natural levee along the River Sata and also on the sand dune area of Yumigahama, and used as upland field.

4. Graybrown soils

In these soils, the matrix colour of subhorizons is mostly gray-brown. Medium textured graybrown soils with mottling such as Yasuki and Zentsuji series are widely distributed on the fan developed on the northwestern part of Mt. Daisen, and used as paddy field. The yield of rice is generally high especially in Daisen-cho area. Fine textured Kaneda series and Tatara series, the latter has manganese concretion, are locally distributed on the lowland along the River Hosshoji, and on the coastal plain of Yodoe-cho. Coarse textured Fukuhara series is widely distributed on the sand bar and sand dune area, and used as upland field. Productivity is very low, and drainage is excessive.

5. Gray soils

Gray soils are characterized by that the matrix colour of subhorizons is dominantly gray. Mainly distributed on the lowland along the

River Hosshoji and the River Hakuta and partly on sand dune area. Very fine textured series, Yotsukura and Saga, the latter has manganese concretion; Fine textured series, Kamojima, Fujishiro, Takarada, the latter has manganese concretion; medium textured Kamo, Kiyotake series, the latter has manganese concretion; coarse textured Toyonaka series, gravelly Okkonogi series, gravel layered Kokuryo series are found. The yield of rice is relatively high in fine to very fine textured soils having no gravel layer, and very low in medium to coarse textured river-bed type soils.

6. Gley soils

In these soils, the occurrence of gley horizon is the dominant morphological characteristic. Widely distributed on the narrow valley in the western mountain areas and on the basins of the River Hakuta and Hosshoji. These soils are subdivided into the following 6 series; very fine textured Kawazoe series, fine textured Chitose, Asozu, Misumishimo series, medium textured Niiyama, Kamihyogo series and coarse textured Yawata series. Most of these soils are used as paddy field, but Yawata series distributed on the sand bar near Hikona in Yonago city is used as upland field.

7. Strong gley soils

In Strong gley soils, the gley horizon occupy the most part of the profile. Water table is generally high and drainage is poor. Widely distributed on the narrow valley in the western mountain areas, coastal plain, marsh area and reclaimed land. Subdivided into 9 series; very fine textured Fusoki, Tagawa, Shiroyama series, fine textured Nishiyama, Higashiura, Chaya series, medium textured Takio series, and coarse textured Kotohama and Katagiri series. These soils are used as paddy field. Productivity is especially low in Kotohama series.

8. Muck soils

Muck soils are characterized by the existence of black colored muck horizon. Locally distributed on the lowland along the foot of mountain, and are used as paddy field. Very fine textured Tagai and

Izumizaki series are found. In the latter, muck horizon is covered by grayish subsurface horizon.

9. Peat soils

Peat soils are characterized by the existence of thick peat horizon. Yodoe is found, and it is locally distributed in the lowland of Yodoe-cho, and is used as paddy field.

あ と が き

1. 本調査は、経済企画庁が建設省国土地理院、通商産業省地質調査所、農林省林業試験場および農業技術研究所に経費を支出委任して行なったものである。

2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。

3. 本調査、地形調査作業規程準則（昭和29年7月2日、総理府令第50号）、表層地質調査作業規程準則（昭和29年8月21日、総理府令第65号）、土じょう調査作業規程準則（昭和30年1月29日、総理府令第3号）に基づき行なったものである。

4. 調査の計画および実施機関ならびにその担当者は、次のとおりである。

企 画, 編 集	経済企画庁総合開発局国土調査課	総理府技官	長池 敏弘
	〃	〃	山崎 寿雄
連 絡	鳥取県農林部耕地課		西川 治久
	島根県農林部農地開拓課		常松 豪
地 形 調 査	建設省国土地理院	建設技官	高崎 正義
	〃	〃	武久 義彦
	島根大学文理学部	文部教官	小畑 浩
表層地質調査	通商産業省地質調査所	通産技官	蔵田 延男
	島根大学文理学部	文部教官	三位 秀夫
	鳥取大学教育学部	〃	赤木 三郎
土 壌 調 査	農林省林業試験場	農林技官	竹原 秀雄
	〃	〃	黒鳥 忠
	〃	〃	河田 弘
	〃	〃	吉岡 二郎
	〃	〃	丸山 明雄
	農林省農業技術研究所	農林技官	小山 正忠
	〃	〃	山田 裕
	〃	〃	三土 正則
	〃	〃	田村 英二

5. 昭和40年度末までに調査ならびに成果の印刷の完了した図幅は、次のとおりである。

- 前橋(群馬県), 熊本(熊本県), 宇都宮(栃木県)
- 四日市(三重県), 津山西部(岡山県), 水沢(岩手県)
- 鹿屋(鹿児島県), 湯殿山(山形県), 寄居(埼玉県)
- 鰍沢(山梨県), 八戸(青森県), 磐田・掛塚(静岡県)
- 龍野(兵庫県), 白老(北海道), 秋田(秋田県)
- 高知(高知県), 佐賀(佐賀県)

1967年3月印刷発行

土地分類基本調査

地形・表層地質・土じょう調査

米 子

編集発行 経済企画庁総合開発局国土調査課

印刷 株式会社 佐々木信親商店

東京都中央区日本橋箱崎町4-9